

■とっておき！美しい都市の景観……………3

「横浜赤レンガ倉庫」横浜市（神奈川県）

■市長座談会……………6

ラグビーワールドカップで地域を世界にアピール

座談会出席市長 ● 釜石市長・野田武則／熊谷市長・富岡 清

東大阪市長・野田義和／大分市長・佐藤樹一郎

司会・コーディネーター ● ラグビーワールドカップ2019

組織委員会事務総長・嶋津 昭

■視点……………12

アジア初のラグビーワールドカップ2019™ 日本大会開催に向けて

ラグビーワールドカップ2019 組織委員会

■市政ルポ 須賀川市（福島県）……………14

復興期から発展期へ新ステージ！

須賀川市長 ● 橋本克也

■マイ・プライベート・タイム……………20

マイ・リラククス・タイム

十日町市長 ● 関口芳史

■わが市を語る……………22

◆先人たちが築き上げてきた札幌の街を

未来を担う子どもたちへ

札幌市長 ● 秋元克広

◆「先端のまち」を目指し、城下町たてばやしが始動する

館林市長 ● 須藤和臣

◆「元気で、あんな、誇りの持てる

ふるさと飛騨市」の実現に向けて

飛騨市長 ● 都竹淳也

◆住んで良かったと思えるまちづくり～元気な垂水づくり～

～九つの彩り豊かに健やかな人を育むまち垂水～

垂水市長 ● 尾脇雅弥

■これぞ！食のイチオシ 日田市（大分県）……………30

■市政ギャラリー 都市の素顔……………31

「宮古の浜岸」（岩手県）



市政ルポ

須賀川市（福島県）

共に支え、選ばれるまちづくり

須賀川市長 ● 橋本克也

特集

都市農業のあり方を展望する

〔寄稿1〕都市農業の現状と農地保全のための課題

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 ● 安藤光義

〔寄稿2〕「農ある街づくり」をめざして

柏市長 ● 秋山浩保

〔寄稿3〕都市農業のあり方を展望する

寝屋川市長 ● 北川法夫

〔寄稿4〕新都市農業の展開状況

養父市長 ● 広瀬 栄

動き

■世界の動き／世界に広がる秋田犬ブーム 拓殖大学海外事情研究所教授 ● 名越健郎

■経済の動き／債券自警団と株式動揺のシグナル 日本経済新聞社編集委員 ● 滝田洋一

■自治の動き／エネルギーの地産地消都市 ジャーナリスト ● 松本克夫

■都市のリスクマネジメント

災害時の議会・議員の役割

跡見学園女子大学教授 ● 鍵屋 一

■時代を駆け抜けた偉人たち

お奉行日和 民政家 川路聖謨^{③⑥}

散ぎわ清し

作家 ● 出久根達郎

■全国市長会の動き

■市政読書室

■編集後記

60 57 56 54 52 50 48 46 43 40 37 34 33

ラグビーワールドカップで 地域を世界にアピール



とみおか きよし
富岡 清

くまがや
熊谷市長(埼玉県)



のだ たけのり
野田 武則

かまいし
釜石市長(岩手県)



司会・コーディネーター

しまづ あきら
嶋津 昭

ラグビーワールドカップ2019
組織委員会事務総長



さとう きい ちろう
佐藤 樹一郎

おおいた
大分市長(大分県)



のだ よしかず
野田 義和

ひがしおおさか
東大阪市長(大阪府)

夏季オリンピック、FIFAワールドカップと並ぶ、世界三大スポーツイベントの1つといわれるラグビーワールドカップ。4年に1度開催され、ラグビーの世界王者を決める大会で、第9回大会「ラグビーワールドカップ2019™」は日本の12会場で開催されます。

座談会では、嶋津昭・ラグビーワールドカップ2019組織委員会事務総長の司会の下、同大会の開催準備を進める野田・釜石市長、富岡・熊谷市長、野田・東大阪市長、佐藤・大分市長にご出席いただき、大会に向けた準備状況や課題、試合会場を満員にするための取り組みなどについて、幅広くお話しいただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

大会に向けての取り組み

嶋津

日本で開催される「ラグビーワールドカップ2019」は、我々組織委員会が主導する大会ではありません。開催地の皆さまと組織委員会が連携して、共に進めるところに最大の特徴があると考えております。その意味でも、両者が大会の成功に向けて力を合わせて準備をし、運営を適切に進めていくことが極めて重要です。本日は、この座談会を通じて大会に向け

国内外からいただいた
復興支援に対する
感謝の気持ちを、
釜石市での開催を通じて
世界中にお伝えしたい。



野田 武則
釜石市長(岩手県)

て共に汗を流す仲間である市長さん方と活発な意見交換ができることを、組織委員会の事務総長としても大変嬉しく思っています。

それでは、まずそれぞれの市長さん方から、これまでの各都市における取り組みについて、お話しただければと思います。

野田(武) 昭和50年代から60年代にかけて、釜石市を本拠地とする新日鐵釜石ラグビー部はラグビー日本選手権で史上初めて7連覇を達成しました。このことは釜石市において最大の誇りであり、これまでまちのレガシーとして大切にしてきました。釜石市が「鉄と魚とラグビーのまち」といわれるゆえんです。

釜石市は東日本大震災で壊滅的な被害を受けました。新たな復興のまちづくりを模索する中で、「ラグビーワールドカップ2019」の日本開催が決定しました。多くの関係者から、釜石も開催都市に立候補すべきだとのご提案をいただきましたが、当時はまだ多くの市民が仮設住宅などで不自由な生活を余儀なくされていた時期でした。果たして立候補することは可能なのか、開催都市に選ばれてもしっかりと準備ができるのか、不安な気持ちもありましたが、最終的には岩手県の全面的な協力の下、共同開催の形で立候補することになりました。開催都市の1つに選ばれた瞬間、まち全体が喜びに包まれたことを、昨日のこのように思い出します。

被災地全体の復興の象徴として、このラグビーワールドカップを地域に活力をもたらす機会としたい。そして、国内外からいただいた復興支援に対する感謝の気持ちを、ラグビーを通じて世界中にお伝えしたい。そうした思いを持ちながら、私たちは被災地、そして東北6県の

代表として、さまざまな取り組みを進めているところ。今後は被災した市民はもちろん、広く東北地方の皆さんともそうした意識の共有を図りながら、万全の準備を進めていきたいと考えています。

富岡 熊谷市では平成3年に、県営熊谷ラグビー場が市内に新設されたことに加え、地元の県立熊谷工業高校が全国高等学校ラグビーフットボール大会で優勝したことで、市民のラグビー熱は一段と高まりました。以来、熊谷市は「ラグビータウン熊谷」を標榜しています。

そのようにして市内のラグビー文化が醸成されてきた中で、「ラグビーワールドカップ2019」の日本開催が決まりました。私は埼玉県ラグビーフットボール協会の会長という立



今年の7月に完成予定の「釜石鶴住居復興スタジアム(仮称)」(釜石市)

熊谷ラグビー場も

8月に竣工予定であり、着実に準備を進めています。世界中の皆さまを「ラグビータウン熊谷」にお迎えしたい。



富岡 清
熊谷市長(埼玉県)

場でもありますが、埼玉県との共同開催で、熊谷市が開催都市に選ばれたことに、大きな興奮を覚えました。

現在は、組織委員会のご指導をいただきながら、各種計画の策定に加え、市民に対する機運醸成や広報活動を進めています。その一環として、成人式など各種イベントでPRブースを出展したり、市役所本庁舎などにラグビーコー

ナーを設置したりしているほか、多くの市民にラグビーを親しんでもらうことを目的に、昨年は「グローバルラグビーフェスタ2017埼玉・熊谷」として、ラグビーの国際交流試合も行いました。観客数は1万1000人を超え、ラグビーワールドカップを迎えるに当たっての課題を抽出する機会ともなりました。

ほかに、隔月での「熊谷ラグビーワールドカップ情報」の市内全戸配布、ボランティアの養成はもとより、子どもたちへのラグビー普及に向けて、関係各所の協力を得ながら、「NHKジュニアラグビー教室」やタグラグビー教室などの取り組みも進めています。

野田(義) 東大阪市は、ラグビーの聖地・花園ラグビー場を有する、ラグビーのまちです。ラグビーワールドカップ誘致の取り組みも実に早く、「ラグビーワールドカップ2019」の日本開催が決まった当日から、活動をスタートさせました。さらに、平成22年に市役所に専門のセクションを設置してからは、ラグビーワールドカップにちなんだ原付きバイク用のナンバープレート制作、クールビズ期間中の職員のラガーシャツの着用、市民への署名活動のお願いなど、一連の取り組みを着々と進めてきました。

開催都市への選出後、昨年2月からは、試合会場となる花園ラグビー場の改修工事も始まりました。今年の9月までに、スタンドの新設・増設、座席の改修、照明設備や大型映像装置の設置工事などが行われる予定です。ちなみにこの花園ラグビー場は、もともと近畿日本鉄道の所有でしたが、平成26年に東大阪市に施設が無償譲渡されました。日本で最も古い、ラグビー専用スタジアムである花園ラグビー場が、市の



熊谷駅前に設置されている「ラグビータウン熊谷」のモニュメント(熊谷市)

所有になったことで、東大阪市のポテンシャルも一段と高まったと思います。

ラグビーワールドカップに向けて、海外からの観客を含め、どのようにお客さまを受け入れ、おもてなしをするのかも大きな課題です。市内には4つの大学があります。また、東大阪市は50万都市ではありますが自治会の加入率が非常に高いまちでもあります。さらに、交通の利便性が高く、京都・奈良などの観光地にも短時間で訪れることができます。ぜひこうした東大阪市ならではの貴重な資源・条件を生かしながら、効果的におもてなしを進めていきたいと思えます。

佐藤 大分市では、約4万人収容できる県営スタジアムがある「大分スポーツ公園総合競技場」

を試合会場に、ラグビーワールドカップでは準々決勝2試合を含め、全5試合が開催されることになりました。地元はとても沸き立っています。これまで、前回イングランド大会のパブリックビューイングを市内で行ったほか、広瀬大分県知事を団長にイングランド大会の視察も行いました。

大分市は、全国屈指のラグビーの強豪校で、過去に全国制覇を果たしたこともある、地元の県立大分舞鶴高校の存在もあり、ラグビーは市民にとって身近なスポーツのひとつです。この2年ほど、大分銀行ドームでラグビートップリーグの試合も行われ、昨年は2万人近い観客が入りました。

このように大分市は、ラグビー熱が高いまち



改修工事が進む「東大阪市花園ラグビー場」(東大阪市)

ですが、大会開催の機運をさらに高めるために、各種イベントでのPR、子どもたちを対象としたタグラグビーの普及イベントなども行っています。さらに、大分駅前や大分空港へカウントダウンボードを設置したり、商店街や県庁・市役所等において垂れ幕の掲示なども行っています。

また、大分市では出場チームが過ごす、公認チームキャンプ地の誘致に向けた取り組みも活

ラグビーワールドカップに合わせて、市内の企業とコラボしながら、東大阪市のモノづくりの素晴らしさも世界に発信したい。



野田 義和
東大阪市長(大阪府)

発に進めています。そのための施設整備として、現在、市内において、練習グラウンドの整備、クラブハウスの改修、照明設備の新設工事などを進めています。併せて、平成28年11月には、私を団長に、大分市ラグビー協会の皆さんと、ラグビーワールドカップ出場国のひとつであるフィジー共和国を訪れ、現地のラグビユニオンや青年スポーツ省、教育省などに対して誘致活動を行いました。

大会に向けての課題

嶋津 4市長さんからお話しいただいたように、釜石市では、スタジアムを新設するほか、熊谷市と東大阪市は、スタジアムの抜本的な改修を行っています。加えて、大分市でも、トレーニング施設を含め、関係施設の改修工事を進めています。いずれの都市も、施設整備に大きな課題を抱えていると思いますが、いかがでしょうか。

富岡 会場となる県営熊谷ラグビー場を運営するのは埼玉県ですから、メインの施設整備については埼玉県の負担で進めています。一方で、ラグビーワールドカップ時に練習会場となる施設の芝生の張り替えなどは、熊谷市で進める予定です。あくまでも県との共催ですから、役割分担をしながら、準備を進めていきます。

むしろ、熊谷市で一番の課題となっているのは、観客の皆さんの移動手段の確保です。県営熊谷ラグビー場は、最寄りの駅から4kmほど離れた場所に位置しています。駅周辺が過度に混雑しないための、適切なファンゾーンの設置、そして駅前を含めた複数カ所からの、バスを利用したパークアンドライド方式での輸送など、現

ラグビーワールドカップの開催はインバウンド促進につながる絶好のチャンス。九州全体での広域的な誘客に取り組みたい。

佐藤 樹一郎
大分市長(大分県)



在、具体的な輸送計画を練っているところでは、**野田(武)** 釜石市では、財源の確保を含め、スタジアムの新設が大きな課題となっていました。が、順調に建設工事が進んでおり、ラグビーワールドカップ時には仮設を含め約1万6000席のスタジアムが、今年の7月に完成の運びです。

他方、熊谷市と同様に、釜石市でも観客の皆さんの輸送が大きな問題となっています。おかげさまで復興関連事業などにより、道路、鉄道

の輸送ライン、アクセスは、従来より確実に良くなっていますが、宿泊施設は釜石市内だけではなくても足りません。まちなかが混雑せず、大勢の観客やボランティアの皆さんが宿泊地域などから、スムーズに会場にお越しいただくために、私たちも大型バスなどを活用したパークアンドライド方式の輸送を検討しています。

嶋津 東大阪市の花園ラグビー場は日本のラグビーの拠点のひとつです。ラグビーワールドカップ開催に合わせて、この花園ラグビー場や、東大阪のまち自体を世界にアピールすることも大切になってくると思いますが、東大阪市ではどのような取り組みを考えていらっしゃいますか。

野田(義) 東大阪市の歯ブラシから人工衛星まで、何でもつくれる「モノづくりのまち」として全国に名を馳せています。ラグビーワールドカップに合わせて、市内の企業とコラボしながら、東大阪市のモノづくりの素晴らしさを世界に発信していきたいと考えています。また、今後、大阪大学医学部が花園ラグビー場を拠点に据えて、スポーツ医学の研究を進めることが決まっています。ぜひ、こうした面も世界に伝えていきたいと思っています。

嶋津 準々決勝2試合が行われる大分市には、特に世界各地から観客が押し寄せることが予想されます。中には2、3週の間、日本に滞在し、複数の試合を観戦するラグビーファンも多くなります。そういった方々に対するおもてなしについては、受け入れ地域として大分市ではどのように考えられていますか。

佐藤 九州にはこれまでも外国から多くの観光客がお見えになっていますが、韓国、中国、台湾のアジア地域の方々を中心です。その点、ラ



「ラグビーワールドカップ2019」開催2年前セレモニーの様子(大分市)

グビーワールドカップ期間中には、ラグビーが盛んな、欧米やオセアニアの方々も数多くお越しになるでしょう。観光振興やインバウンドの促進につながる絶好のチャンスだと思っています。

大分県内の魅力発信はもちろんのこと、大分市同様にスタジアムがある熊本市、福岡市の関係者とも連携して、ぜひ九州全体での広域的な誘客に取り組みたいと考えています。また、英語圏から訪れる方々も多いと思いますので、英語を使った情報発信にも力を入れていきたいです。

全試合「満員」が大会成功の条件

嶋津 私はラグビーワールドカップ2019の成功の条件は、全48試合においてスタジアムを満員にすることにあると考えています。そのた



嶋津 昭
ラグビーワールドカップ2019組織委員会事務総長

めの各都市の方策、取り組みについて、最後に聞きたいと思います。

富岡 地元で開催するわけですから、熊谷市民に足を運んでいただくことが大切です。昨年、トップリーグの試合の「市民優待」の取り組みなどを行いましたが、こうした取り組みなどを通じて、ラグビーに対する親しみをさらに高めていきたいと思っています。

併せて、熊谷は上越新幹線の停車駅でもあります。その利便性を生かし、首都圏、そして新潟県や北陸地方の方々からお越しいただきたいと考えています。

佐藤 恐らく1試合当たり4万人のうち、2万人は地元を中心に九州地域の方々、残りの2万人は外国人や九州以外からお越しになる方々に分けられると思います。

地元の皆さんに対しては、世界の強豪チームの試合を見る機会はない、まさに一生に一度の機会であることをしっかりPRしていく一方で、九州以外の方々に向けては、先ほど申し上げた広域観光も含めて、地域の魅力を積極的に発信していきたいと思っています。

野田（武） 私たちのような小規模都市におい

て、1万6000席を満員にするというのは、確かにハードルが高いです。しかし、被災地、東北6県を代表して開催することを考えると、決して手に余る数字ではないと思っています。各被災地にある震災の伝承施設をはじめ、既存の観光資源も組み合わせながら、釜石市への誘客につなげたいと思います。

加えて、私たちは東日本大震災を通じて、人と人の絆の大切さを強く実感しましたが、それはラグビーの精神、スポーツの原点とも相通じるものがあるように思います。ぜひ、そうしたスポーツの原点が垣間見られる試合を、大漁旗を使った釜石独自の応援スタイルなども通じて、お見せしたいと思っています。

野田（義） 地元の方々を中心にラグビーワールドカップの開催を心待ちにしている方ばかりです。全国のラグビーファンの来場が見込めるほか、今年からは、外国人向けのパンフレットを作成し、ラグビーワールドカップを含めた「聖地」花園ラグビー場のPRも、海外に向けて積極的に開始しております。

また、日本のラグビーの拠点にふさわしい取り組みとして、各国代表チームのキャンプ地の自治体や近隣会場の神戸市ともスクラムを組んで、神戸と花園の試合をセットで見ただけのような施策を仕掛けていきたいと思っています。

嶋津 試合会場、宿泊・トレーニング施設を含め、最高の環境を出場チームの皆さんに提供することが、我々に与えられた課題です。それがラグビーワールドカップを盛り上げ、大会を成功に導く必要十分条件だと思います。

さらに、私たちはラグビーワールドカップ2019が終わった後に、何をレガシーとして



残すことができるのか、という点についても考える必要があります。私としてはスポーツを巡る文化、経済において、新しい側面を開く大会にできるのではないかと考えています。

また、今回の日本開催はアジアで初めてのラグビーワールドカップです。この日本大会がアジアに広くラグビーを普及させ、かつ日本国内においても、ラグビーのすそ野を広げる手掛かりとなる大会になったといわれるように、ぜひ、市長の皆さま、住民の皆さまとともに努力していきたいと思っています。本日はありがとうございました。

（平成30年1月24日、全国都市会館にて開催）
本コーナーは隔月掲載となります。次回は5月号に掲載予定です。

アジア初の ラグビーワールドカップ2019™ 日本大会 開催に向けて

ラグビーワールドカップ2019組織委員会

ラグビーワールドカップについて

平成31年9月20日にラグビーワールドカップ2019日本大会が開幕する。アジアで初、そしてラグビー伝統国以外でも初めての開催となる。

平成30年1月19日には、ついに大会チケットの販売申込みも始まった。まずは、大会出場各チームのプール戦の全試合が対象となるチームパックスおよび各スタジアムのプール戦全試合が対象となるスタジアムパックスのチケットの抽選販売申込みを2月12日まで行ったところ、世界101の国と地域からのお申込みをいただいた。大会開催に向けて、まさに世界中のラグビーファンの注目が、この日本に注が

れているのである。

さて、まずは、このラグビーワールドカップについて、その特徴をお伝えしたい。

ラグビーワールドカップは、その規模から、オリンピック、サッカーワールドカップと並ぶ世界三大スポーツイベントの一つと言われている。昭和62年に第1回大会がニュージーランド・オーストラリアの共同開催で行われて以降、4年に1回開催されており、今度の日本大会が第9回大会となる。

開催を重ねるごとに観戦者数等が増えており、平成27年に開催された前回のイングランド大会では、観客総動員数が約247万人、海外から現地への観客数は46万人と推定されている。さらにテレビの視聴者数も40億人といわれている。

今回の日本大会について

次に今回の日本大会の概要についてお知らせしたい。大会開催期間は、平成31年9月20日か

ら11月2日までとなっており、全国12の試合会場で48試合が行われる。開催都市と試合会場については、大会公式ウェブサイトを(rugbyworldcup.co.jp)をご覧ください。

大会出場チームは20チーム。前回大会の成績から日本を含む12チームと世界各地の予選を勝ち抜いた4チームの合計16チームの出場が決まっている(平成30年2月14日現在)。残り4チームについては、今なお世界各地で出場枠をかけた予選が続いており、今年の11月までには、残りの4チームが確定する予定である。

大会は、大きくプール戦と決勝トーナメントに分かれる。プール戦は20チームを5チームごとに4つのプールに分け、1つのプール内で5チームが総当たりで試合を行い、上位2チームが決勝トーナメントに進む。決勝トーナメントは、4つのプールから進んだ8チームで行い、トーナメントを勝ち抜いたチームが優勝となる。詳しい試合日程についても、大会公式ウェブサイトでお知らせしている。

大会開催に向けて～これまでの軌跡～

ここで、これまでの軌跡を簡単に振り返っておきたい。

ラグビーワールドカップ2019の日本開催は平成21年7月に決定した。その後、平成25年



試合日程の発表会

から平成27年にかけて開催都市選定を実施し、平成27年3月2日に12開催都市を決定した。

平成28年には、公認チームキャンプ地選定プロセスをスタート。共同応募を含め、90自治体から76件の応募をいただいた。

平成29年には、5月にプール組分け抽選会、11月には試合日程発表と重大なイベントを開催。また、優勝トロフィーの「ウエブ・エリス・カップ」を全国でお披露目するツアーも行った。そして、今年1月にはチケット販売申込みを開始。また、同じく大会マスケットの「レンジー」の発表も行っている。

大会開催がもたらすもの

大会開催に向けてあと約1年半。今春には、大会ボランティアの募集も始まる予定である。また、セット券に続き、通常チケットの販売申込みも2月から始まっている。ラグビーワールドカップに向けて、さらにその盛り上がりは加速していく。

大会開催に向けて盛り上がる中、われわれ組織委員会と開催都市に加えて、大会成功に向けて、政府や公認チームキャンプ地に立候補いただいた自治体、開催都市と密接に関わる自治体、日本ラグビーフットボール協会、三地域および各都道府県ラグビー協会、経済界の方々等、あげればきりがなほ多くの皆さまにご協力をいただいている。

われわれは、大会ビジョンとして、「絆 協創



公式マスコットの「レンジー」

そして前へ」を掲げている。

この大会を契機に、日本と世界を強い絆で結び、アジアで初となるこの大会を誰も経験したことのない歴史に残る祭典として創り上げ、社会的、経済的に素晴らしい効果を残すものになりたいと考えている。

大会開催を通して、東日本大震災や熊本地震から復興する強い日本を世界に発信し、日本と世界との国際交流の推進、日本そしてアジアでのラグビー普及等を成し遂げていく。

ラグビーワールドカップ2019日本大会の成功に向けて、皆さまにもぜひご協力をお願いしたい。

復興期から発展期へ新ステージ！ 共に支え、選ばれるまちづくり

はしもとかつや
橋本克也
須賀川市長

ウルトラマンと 松尾芭蕉が溶け合うまち

福島空港(須賀川市・石川郡玉川村)が立地する臨空都市・須賀川市。その中心市街地はJR須賀川駅から南に1kmほど進み、釈迦堂川に架かる須賀川橋を渡った先に展開している。駅前通りを経て中心市街地に至るこのメインストリートは「松明通り」と呼ばれる。当地で420年以上続く日本三大火祭りの一つ「松明あかし」(11月)にちなんだ名称だ。

須賀川橋を渡ってすぐ右側の丘陵にそびえているのは、明治5(1872)年創立の輝かしい歴史を持つ公立岩瀬病院(旧県立須賀川病院)の偉容だ。旧県立須賀川病院は創立翌年に旧須賀川医学校を併設し、後藤新平など幾多の俊秀を輩出したことでも知られる。そして公立岩瀬病院は現在、一般病床279床、標榜診療科21を有する厚生労働省臨床研修指定病

院、救急告示病院である。東日本大震災により被災したが、地域とともに復旧を進め、平成25年に新外来棟竣工。昨年4月には産科婦人科を開設し、周産期医療の機能を併せ持つ、地域(須賀川市・岩瀬郡・石川郡)の中核的医療機関として、震災以前よりもパワーアップする形で見事によみがえった。

駅前から、この「松明通り」にかけては、世界に2つとない、ユニークかつ個性的な景観が展開し始める。

昭和41(1966)年にテレビ放映を開始して以来、次々と新ヒーローを生みだしながらさまざまなメディアで断続的に制作され、常に人気を博してきた『ウルトラマン』シリーズ・主要キャラクター(オリジナル・怪獣も含む)のモニユメント計14体が、道路の左右に次々と現れるのだ(平成26〜29年度に設置)。

これは須賀川市出身で『ゴジラ』シリーズの特撮監督、『ウルトラマン』シリーズなどの生みの親として世界的に知られる円谷英二監督

の顕彰事業の一環でもある。

同事業の詳細は後に述べるが、JR須賀川駅から「松明通り」を進んできた人々は、このように近未来を舞台に活躍する特撮ヒーローや怪獣のモニユメントに導かれる形で、かつては会津街道・奥州街道

屈指の宿場町としてにぎわい、俳聖・松尾芭蕉が『おくのほそ道』の道中、長期滞在したことも知られる須賀川の中心市街地へと、足を踏み入れることになる。

前後400年以上のスパンを持つ、過去・





420年以上の歴史を誇る日本3大火祭りの一つ「松明あかし」

現在・近未来をつなぐ歴史やイメージが渾然一体となったこの「道行き」には、須賀川市が東日本大震災の不幸な被災体験を克服しながら、着実に「新たな境地のまちづくり」へと歩を進めつつある現況が、端的に示されている



松明通りを彩るウルトラシリーズのモニュメント(怪獣ピグモン)

©円谷プロ

ともいえる。そしてこの中心市街地の中央に鎮座するのが、昨年3月30日に落成した須賀川市復興のシンボルであり、新たな飛躍への拠点ともなる新庁舎(地上6F、地下1F)だ。「東日本大震災から丸6年の時を掛けて、まさに待望久しい新庁舎がようやく、完成したことになります。免震構造を取り入れた防災拠点であり、安全安心な庁舎です(開庁は昨年5月8日)。

この新庁舎を単なる行政施設とは、私たちは考えていません。むしろ公共施設として、市民の皆さんにも共に広く活用していただ



ちなみに『ウルトラ窓口』のウルトラは、(ウ)受付の、(ル)ルートをわかりやすく、

新庁舎から始まる 「選ばれるまち」への船出

き、市民の皆さんに『私たちみんなの家』と
思っていただけることをコンセプトに、建設
いたしました」

橋本克也・須賀川市長がそう語るように、
新庁舎に入ってまず目立つのは、市民を迎え
てにこやかに対応するコンシェルジュが待機
する受付と、市民の憩いの場とも位置付けら
れている広々としたホールである。この受付と
各課の窓口をつなぐシステムには『ウルトラ
窓口』、広々としたホールには『みんなのスクエ
ア』という愛称がそれぞれ付けられている。



新庁舎落成式(中央のモニュメントはウルトラの父)

©円谷プロ



市民に大好評の新庁舎ホール「みんなのスクエア」

(ト)届出を、(ラ)楽に』の頭文字をとったものである。新庁舎は1Fに生活環境部門および健康福祉部門を集約し、住民の異動や保険・年金、福祉関係の手続きや相談など、市民による市役所の活用頻度の高い部署の窓口を切れ目なく、手早く回れるような配置と動線の工夫がなされている。コンシエルジュは各窓口の場所を案内するだけでなく、タブレットを使いながら、手続きそのものの支援も行う。ウルトラ窓口はこうしたスムーズなシステム全体を指す愛称なのだ。

「そして『みんなのスクエア』という愛称には、文字通り市民の皆さんに、ここをみんなの広場(スクエア)として活用していただきたいとの思いが込められています(橋本市長)」

『みんなのスクエア』は、前出の市長の言葉にあった「公共施設としての市役所」の《肝》となる場所である。新庁舎は建物(1F～3F)の片側約3分の2が執務スペース、片側約3分の1は市民の待合や休憩などのほか、職員も打ち合わせなどに利用できる開放スペースになっている。さらに4Fは議場、5Fは発電機などの機械室、6Fは『ウルトラフロア』の愛称をもつ展望階。『みんなのスクエア』をはじめとする開放スペースおよび展望階は、市役所業務が終了した後も午後9時まで利用できる。

「市民の皆さんにぜひ使っていただきたいと最初から考えてはおりましたが、実際に開庁してみましたら、中高校生が放課後や夏休



250年以上の歴史に彩られた国指定名勝「須賀川の牡丹園」

みなどに宿題をしに来るなど、老若男女の市民が予想以上に活発に利用してくださることに驚きとともに、大きな喜びを感じております(橋本市長)

防災拠点ともなる安全・安心な庁舎、市民に開かれた利用しやすい庁舎、機能性・柔軟性を重視した使い勝手のいい庁舎、建築資材の選定や自然エネルギーの活用など環境にやさしい庁舎、須賀川を象徴するシンボリックな造りの庁舎——。開庁してまだ1年も経過していない。だが前出のような市民の活用の仕方を見るにつけ、新庁舎建設に当たって当初から企図していたこれらの基本理念や基本方針が、市民に早くも受け入れられていることは明らかだろう。

須賀川市

市 政 ル ポ

(福島県)

折しも昨年12月半ば、平成30年度から施行される「第8次総合計画」が策定された。この新総合計画に掲げる将来都市像は《選ばれるまちへ》ともに歩む自治都市 すかがわだ。

須賀川市では昨年3月、「第8次総合計画」が「人口ビジョン」や「地方創生総合戦略」を包含する須賀川市の最上位計画であることを明確にした。「須賀川市総合計画策定条例」を制定している。その上で、市内9カ所での地域懇談会を重ね、岩瀬管内の5つの高校で「高校生の須賀川創生ミーティング」を開催するなど、市民との徹底的な意見交換を実施し、策定に至った。震災復興後初の総合計画を、名実共に市民協働を基本理念とする、新たなまちづくりの指針とするべく、綿密に準備を進めてきた。

「都市像に掲げた自治都市という言葉には、市民協働を旨とするという意味のほかに、歴史的な伝統を踏まえた経緯もあります。例えば松尾芭蕉が『おくのほそ道』の旅の途次に須賀川を訪れ、7泊もしていったという事実には、当時の須賀川が奥州街道屈指の商業の町であったこと、豊かな経済力を基盤にした町人文化が根付いていたことなどの歴史的背景がありました。さらに江戸時代から明治時代に掛けての須賀川には、教育や福祉に関して、町人による先進的な自治が行われていたのです。第8次総合計画を貫く自治への思いには、そうしたさまざまな裏付けがあります。そして震災からの復興が進む今だからこそ、市民

の皆さんとの徹底的な意見交換の末に、改めてその精神を盛り込むことで合意がなされたという経緯があるのです(橋本市長)

宿場町として栄えた江戸時代の須賀川には、例えば現代の子育て支援をほうふつとさせる「赤子養育事業」という制度があった。また明治初期に創立された前述の旧県立須賀川病院(公立岩瀬病院の前身)の建設に際しては、地域有志による多額の寄付金などの貢献が原動力になった。さらに松尾芭蕉が須賀川に7泊したのは知人である俳人・相楽等躬の家だった。当時の須賀川には芭蕉が長期滞在するにふさわしい文化的土壌があり、それを支えていたのは町人(商人)たちの経済力、文化をはぐくんできた自治意識だった。

須賀川市「第8次総合計画」の基本理念には、そうしたDNAまでもが受け継がれ、盛り込まれているのだ。

市民交流センターが担うもの

須賀川市では現在、新庁舎や公立岩瀬病院などととも、復興および新たなまちづくりのシンボルとして位置付けられるもう一つの施設が完成間近の状況になっている。市民交流センター「t e t t e (テッテ) (地上5階建)」である。これは「新たな文化交流と市民活動の拠点となる施設(橋本市長)であり、ステップアップした市民協働事業の基盤に不可欠な、自治意識の醸成に資する各種の活動やイベントなどの開催のほか、館内には図書館や「円谷英二ミュージアム」の整備などもなされる。今



相楽等躬宅跡地に建つ須賀川市芭蕉記念館(下)と中心市街地に点在する「俳句のきあんどん」(上)



1964東京五輪マラソンの銅メダリスト・円谷幸吉メモリアルホールには同選手の足跡が満載

年9月末に完成予定で、その後、館内の整備を経て、来年1月11日にオープンする。

「東日本大震災で本市は未曾有の被害を受けました。震災による死者・行方不明者は12名で、そのうち8名が市内西部に位置する藤沼ダムの決壊によるものでした。藤沼ダムはその後、復旧工事を経て昨年1月に再び水を湛え、ダムとして稼動しています。

また全壊家屋は1249棟に及びましたが、その約半数は中心市街地に集中していません。須賀川市は地盤のしっかりした地域とさされてきましたが、江戸時代に完成した中心市街地は地層の軟弱な場所もあり、液状化現象

に襲われたので

す。そのため旧

市役所庁舎と

ともに、総合福

祉センターなど

多くの公共施

設が使用不能

となりました。

現在工事を進

めている市民交

流センターは、

総合福祉セン

ターに代わる

新たな施設と

いう位置付けですが、子育て支援などの各種

福祉機能の強化はもとより、文化発信機能、

市民活動の拠点性の強化、生涯学習機能の強

化などを盛り込んだ、非常に画期的な施設に

なります」(橋本市長)

新庁舎とともに市民交流センターもまた、

市民参加による徹底的な意見交換に基づき、

企画・設計がなされている。

この中で注目されるのが最上階(5F)に設

置が予定されている「円谷英二ミュージアム」

の存在だ。

先ほど江戸時代に培われた住民自治とそこ

から派生した町人文化のDNAについて少し

触れた。須賀川市を故郷とする円谷英二監督

が体現した、「特撮」を通じての創意あふれる

モノづくり文化の創造および文化発信活動も



「円谷英二ミュージアム」や「図書館」等も入る市民交流センター工事現場



東日本大震災で決壊した藤沼ダムも復旧が完了

また、「須賀川ならではのDNAの発露」(橋本市長)といえるだろう。円谷英二監督とその後裔たちが牽引し、日本の映像文化の一翼を担ってきた実写映像による《特撮》は、CG全盛の現代においても「TOKUSATSU」と普通名詞化され、世界の一流映像作家たちに多大な影響を与えている。

「円谷英二監督の世界をいかに顕彰し、須賀川の文化発信の重要なコンテンツとして後世に伝えていくかは、須賀川市の長年にわたる課題でした。円谷プロダクションや東宝をはじめとする関係各位のご協力の下、いよいよその思いを形にしていくなための機が熟したといえます」(橋本市長)

その「機が熟した大きなキッカケもまた、東日本大震災だった」と橋本市長は言う。

須賀川市

市 政 報

(福島県)



円谷選手の偉業をたたえる「円谷幸吉メモリアルマラソン大会」(10月)

須賀川発信のシンボル《M78光の町》

「東日本大震災の復興支援にはあらゆる方面から、さまざまな形のご協力を賜りました。円谷プロダクションによる『ウルトラマン』たちの被災地支援活動もその一つでした。ウルトラマンが被災地に来てくれることで、年齢に関係なく、どれだけの被災者の方たちが励まされたか、想像もつかないほどです。その様子を見させていたただくにつれ、私は円谷英二監督の事績の大きさを改めて感じました。同時に円谷監督の故郷

でもある須賀川の復興と、その後の新たな発展へのシンボルとして、円谷英二監督の世界を顕彰させていただきたいと考えるに至ったのです」(橋本市長)

須賀川市では手始めに、震災から2年後の平成25年の子どもの日(《すががわ市M78光の町》(ウルトラマンの故郷はM78星雲)という仮想都市をネット上に構築。そこはウルトラヒーローたちが暮らす光輝く町で、誰もがネットで申し込むことにより、無料で光の町に住居登録でき、ヒーローと一緒に暮らせるという設定だ。

《M78光の町》には現在、1万2000人強の住民登録がなされている。市民交流センターが完成し、円谷英二ミュージアムが公開されれば、光の町の住人も急増することだろう。さらに現在、円谷英二監督を元祖に世界の映像コンテンツとなった日本の特撮文化に関連する貴重な作品の収集・保存・修復・展示などを目的とする「須賀川特撮アーカイブセンター」(仮称)の準備も着々と進んでいる。

また2020東京五輪に向け、須賀川市が生んだ日本初のマラソン五輪銅メダリスト・円谷幸吉選手の顕彰事業も推進されている。円谷英二監督の世界と併せ、2020東京五輪に際してのインバウンド効果の重要なコンテンツとなることが期待される。「復興から新たな発展期への移行はもちろん、言うほどにたやすいことではないと重々覚悟している」

と語る橋本市長だが、新たな発展期に向けての支えとなる発信力の醸成は、これまで述べてきたように着々と進んでいる。

さらに全国の都市共通の課題である人口減少化対策として、須賀川市(現人口約7万6000人)が位置する福島県中通り地区では現在、「公共施設のエリア内での共用や、各自備わる豊富な地域財産を互いに活用し合い、地域力を維持する」(橋本市長)べく、地域の中核市・郡山市(現人口約33万5000人)を中心に、15市町村の連携中核都市圏構築の計画が検討されつつある。そうした広域圏の動きと併せ、「磨けば光る原石が目白押し」の須賀川市の今後の動向は、要注目だ。

(取材・文〓遠藤隆／取材日平成29年12月8日)



空の玄関口・福島空港にもウルトラヒーローの守護神が立つ

マイ・リラックス・タイム

とおかまち
十日町市長(新潟県) 関口芳史
Yoshifumi Sekiguchi



春にはたくさんカメラマンで賑わう「星峠の棚田」の貴重な雪景色

来年70回を迎える「十日町雪まつり」も終わり、名にし負う豪雪地 越後妻有 十日町市にも、少しずつ春の兆しが見え始めてきています。もういくつかの3月の雪のイベントを終えると、当地にも待ちに待った北国の春が到来します。棚田の雪が割れ、ブナが芽吹き、こぶしの花が咲き、ふきのとう、こごみ、木の芽といった山菜が順々に登場し、人々を里山に誘います。木々の精気をもたらって、山の幸を探しながら春を楽しむ。厳しい冬を過ごした雪国の人々に与えられた特権かもしれません。

日ごろの心の憂さもすべて山に吸い取ってもらって、私にとっても本当にリラックスできる時間です。

里山の散策に加えて、私にはもう一つ大いにリラックスできる時間があります。ペット自慢はどうかと思いましたが、今年、平成30年は成年でもありませんので、それに免じて、わが家の「あんず」の話をさせていただきます。

「あんず」の生い立ち

今から7年前の、平成22年の十日町市 秋期総合防災訓練で、黒いラブラドル・レトリバーに出会いました。その中の一頭が「あんず」の母「ほたる」で、彼女は昨年亡くなりましたが、良く訓練された災害救助犬でした。その時おながが大きかったにもかかわらず、指揮者の指示に的確に反応し、がれきの中の人を捜し当てていました。「ラブラドル」は人が大好きな犬種で、後1カ月足らずで子どもが生まれるが、飼いませんか」と勧められ、即決しました。家族には事後報告でしたが、1年半前に柴犬を亡くしてそろそろという機運が高まっていたこともあり、全員



ラブラドル・レトリバーのあんずちゃんと筆者

賛成となりました。大型犬を飼うのは初めてだったので、今回は育てやすい雌犬をもらおうと、誕生を心待ちにしていました。

生まれたとの知らせを受け、家内と当時15歳の息子と駆けつけると、10頭生まれた内に、雌は1頭、それがあんずとの出会いです。生後2カ月で家に連れて来たときは、息子の両手のひらに乗せられて、小指ほどの短い尻尾を思いつきり振って挨拶していました。

人間も犬も小さいときの教育が肝要と思いますが、私は、あんずに関しても、一番大事なしつけにほとんど参画できませんでした。家族から「仏壇の座布団に漏らしたとか、ゴミ箱に顔を突っ込んでいた」とか耳にはしましたが、その年は、東日本大震災の翌日発生した、長野県北部地震と7月の新潟・福島豪雨で、ほとんど

ど防災服で過ごしておりましたからね。

「あんず」の生活

わたしは良いとこ取りばかりで、家族には申し訳ないばかりですが、しかし、家内は、あんずは犬小屋ではなく、家の中で飼うことにしたこともあり、相当頑張っつけてくれたようです。おかげで、25kgの成犬となった今では、過去3代のわが家の犬たちと比べて、格段に分別があるようで、今は一家の一員として、完全に人間のように取り扱われています。(笑)

前の犬たちとの違いはといえば、まずあんずはめつたに吠えません。家具などガリガリ傷つける事もないし、ゴミ箱はもちろん、食卓のものには、誰も見ていなくとも決して手を出すことはありません。

朝は、2階の寝室から降りてきて、居間で朝刊を読んでいる私の相手をしながら、お友達が来れば察知して、外に出せと合図してきます。冬でも雪の中を2頭並走し駆け廻っています。そのあとの散歩は、私の母の担当で、いつものコースを1時間、途中で別のお友達と遊んできます。老人のペースを尊重し、リードを



毎日の朝刊を読む相手をしてくれる愛犬あんず

引っ張ることなく、真横を歩きます。母が健康で足腰もしっかりしているのは、長年のこの習慣のおかげでしょう。

そして、足を洗ってもらって家へ上がると、一目散に朝ご飯。これは唯一私の担当です。ペットフードを一瞬で平らげますが、もし「そこで待て」と言えば、よだれは止めどもなく溢れるでしょうが、多分10分でも待ち続けたと思います。たまに、誰もいない信濃川の河川敷に行って練習をします。「そこで待て」と言っただけで、私はどんだん広場を対角線に進みます。100mも離れたところで、「よし」と叫ぶと、まさに飛ぶが如くこちらに向かってくるくれます。ささやかですが、私の至福の瞬間の一つかもしれません。

犬の効用

夕方の散歩は、これは家内の担当です

が、下校する子どもたちが遠くから「あんずちゃんだー」と駆け寄ってきて、あんずを真ん中に子ども達の会話も弾むようです。あるとき1人で下校していた小学生の男の子と出会い、別れ際に「今日は学校でいやなことがあったけど、あんずちゃんに癒やされた」と言われたこともありました。

ここ数年、保健所からの依頼で、あんずは特養施設の慰問に出掛けます。色が黒い大型犬ですから、怖がられないように、歯磨き・シャンプー、可愛い服でおしゃれをして向かいます。施設のホールで大勢の利用者さん1人1人のそばに寄り添い、撫でてもらうって、何をされても喜んでしっぽを大きく振るので、高齢者の皆さんにも大きな笑顔が戻り、職員の皆さんにも喜ばれているようです。

このように、私自身も里山や愛犬に癒やされながら、市長職を続けさせていだだいておりますが、この経験を生かし、物言わぬ植物や、動物のセラピー効果を市政に積極的に取り込んで、市民の皆さん、特に子どもたち、おじいちゃん、おばあちゃんが、少しでも幸せを感じてもらえるために、力を尽くす所存です。そしてこの夏は、7回目を迎える「大地の芸術祭」の作品たちを目当てに、越後妻有の里山を、「あんず」と一緒にゆっくりと巡りたいと思います。

わが

先人たちが築き上げてきた札幌の街を 未来を担う子どもたちへ

豊かな自然と 都市機能が調和した街

札幌市は日本最北の政令指定都市であり、充実した都市機能を有しながら、四季折々に表情を変え、美しい自然を兼ね備えており、多くの皆さまから愛されています。



藻岩山からの夜景

す。また、道内各地から旬の味覚が集まる食の宝庫であるとともに、日本新三大夜景や日本三大イルミネーションに選定されるなど、さまざまな魅力にあふれた街です。

今から140年余り前の明治2年、「蝦夷地」と呼ばれていた大地が「北海道」と改称されたころ、開拓使の判官として着任した島義勇は、石狩川や雄大な山々に囲まれた大平野を望み、「他日五州第一の都」（いつかこの場所に世界一の都を創るの意）と詠んだと言います。札幌のまちづくりは、この島判官の壮大な志のもと、偉大な先人たちの手によりその一歩を踏み出しました。そして、先人たちの熱い思いを大切に受け継ぎながら、国内有数の大都市へと発展してまいりました。

誰もが安心して暮らし 生涯現役として 輝き続ける街

札幌市の人口はいまだ増加傾向にあるものの、合計特殊出生率の低さや若い世代の道外への転出超過といった課題を抱えており、これに伴う社会保障関係費の増大や経済規模の縮小が懸念されています。こうした状況を踏まえ、UITターン就職希望者や地元企業への支援をはじめ、道外からの企業誘致、そして大規模な国際会議が開催可能なMICE施設の整備に向けた検討など、市内経済の活性化を目指した取り組みを進めているところです。

また、女性の割合が高い札幌で、その力を十分に発揮できるように、平成29年5月に設置した「女

性応援会議」をはじめ、保育人材の確保に向けた保育士・保育所支援センターの設置や、待機児童ゼロを目指した保育定員の拡大などを通じて、女性の皆さまがあらゆる場面で活躍しやすい環境づくりに取り組んでいます。今後も誰もが安心してこの街で暮らしていくことができるよう、さまざまな取り組みを進めてまいります。

世界都市としての魅力と 活力を創造し続ける街

平成29年2月に開催した冬季アジア札幌大会では、32の国と地域から集結した選手たちによって熱い戦いが繰り広げられ、世界各国からお越しいただいた関係者の皆さまに大変ご好評をいただきました。

大会を通じて醸成された機運を礎に、本市では現在、冬季オリンピック・パラリンピックの招致に向けた取り組みを進めています。この街は、昭和47年の冬季オリンピックの開催を契機に、都市基盤が急速に整備され、飛躍的な発展

を遂げました。冬季オリパラを再び開催することは、多くの人々に勇気と感動をもたらし、この街が一層輝くための起爆剤になるとともに、札幌の魅力が国内外に広く発信できるまたとない機会になると考えます。そしてこれに伴い、競技施設のみならず都市基盤の更新も図り、活力があふれ世界を引きつける都心の再開発を一層進めてまいります。

また、8月から10月までの57日に渡って開催した札幌国際芸術祭2017では、音楽や美術といった既存のジャンルにとらわれないアート作品を紹介し、札幌の独自性を発揮した芸術祭となったことで、市民の皆さまだけでなく



「探偵はBARにいる3」撮影風景

国内外にも札幌の街の新たな魅力を発信することができ、結果として延べ38万人以上の方々にお越しいただきました。

そして、さらなる魅力の発信に向け、本市ではこの街を舞台にした映画やドラマなどの誘致を進めており、平成29年に地域を最も盛り上げた映画とロケ地を表彰する「第8回ロケーションジャパン大賞」では、『探偵はBARにいる3』という作品とともに本市がグランプリを獲得することができました。

平成30年10月には新たに、札幌市民交流プラザをオープンいたします。このプラザには、本格的なオペラやバレエなどの公演が可能となる札幌文化芸術劇場をはじめ、札幌市図書・情報館なども設置される予定であり、文化芸術と市民交流の新たな拠点として大変期待を寄せているところです。今後さまざまな取り組みを通じて、街の魅力をさらに高めながら、その存在を一層アピールしてまいりますと考えています。

心豊かで明るい札幌の未来

平成30年は北海道と命名されて

から150年という節目の年で、先人たちの弛まぬ努力によって発展を遂げてきたこの街を、未来を担う子どもたちへとしっかりと引き継いでいくため、引き続き、「誰もが安心して暮らし生涯現役として輝き続ける街」「世界都市としての魅力と活力を創造し続ける街」という2つの「札幌の未来の姿」の実現に向け、全力でまちづくりを進めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 1121km²
- ◆ 人口 195万2348人
- ◆ 世帯数 104万8469世帯

〔将来都市像〕「誰もが安心して暮らし生涯現役として輝き続ける街」
 「世界都市としての魅力と活力を創造し続ける街」

〔まちの特徴〕豊かな自然と充実した都市機能を兼ね備えた魅力あふれる街
 〔特産品〕ジンギスカン、ラーメン、スイーツ、スープカレー



札幌市長
秋元克広



〔観光〕大通公園、テレビ塔、さっぽろ羊ヶ丘展望台、藻岩山、モエレ沼公園、時計台、赤レンガ、大倉山
 〔イベント〕さっぽろ雪まつり、さっぽろホワイトイルミネーション、さっぽろオータムフェスト、YOSAKOIソーラン祭り、ミュンヘン・クリスマス市 Sapporo、さっぽろ夏まつり



札幌市民交流プラザ(完成イメージ図)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「先端のまち」を目指し 城下町たてばやしが始動する

国の名勝「躑躅ヶ岡」をはじめとする
名所を生かして

館林市は「鶴舞う形」の群馬県の南東部に位置し、都心から車や電車で約1時間という高い利便性を有しています。また、豊かな水資源にも恵まれていることから、食品製造業をはじめ、多くの企業が操業しており、のどかな自然と観光資源あふれるまちです。

中でも、樹齢800年を超えるヤマツツジが自生する「つつじが岡公園」には、年間約31万人の観光客が訪れ、花が咲き誇る5月には、多くのお客さまでにぎわいを見せます。約50種、1万株のツツジを保護しているこの公園は、まさに世界一のつつじの公園です。平成29年には、この公園を守るた



樹齢800年を超えるヤマツツジ

めのサポータークラブも結成いたしました。その公園の北に位置する城沼には、夏、花ハスが一面に美しく広がります。舟に乗ってハスの間を巡るジャングルクルーズは、国内外のお客さまからも大変好評をいただいております。平成29年

10月には、沖縄で開かれた学会において、城沼のこのハスが推定3000年前から自生する「古代ハス」であると発表されました。そのほか、童話「分福茶釜」で有名な茂林寺、冬場にハクチョウが飛来する多々良沼など、数多くの名勝を持つ美しいまちです。最近では、この「城沼」「多々良沼」「茂林寺沼」の3つの沼に整備された遊歩道を含むウォーキングコースが、それぞれ新日本歩道道紀行100選に選ばれました。こうした素晴らしいウォーキングコースを活用し、健康増進と交流人口の増加を図っております。

徳川綱吉ゆかりの城下町

館林城は、かつては徳川家康の関東入国とともに、徳川四天王の一人、榊原康政公が城主として入

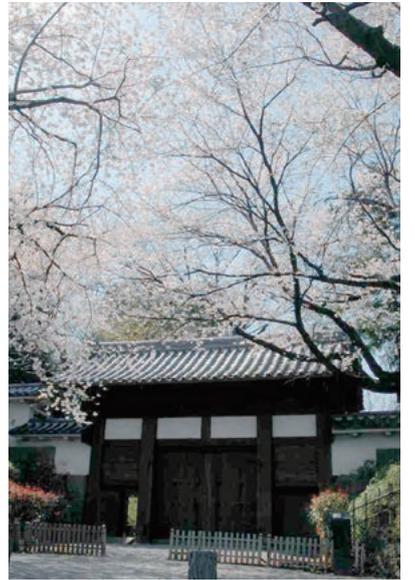


城沼の花ハスクルーズ

城いたしました。また、五代将軍、徳川綱吉公が19年間館林城主を務めたことでも有名です。

私たちの郷土館林は、江戸時代から先人たちが育て上げてきた城下町です。江戸時代から続く城下町文化の風情を後世に伝えていくまちづくりを推進していきたいと考えています。

そうした本市の歴史を感じられ



昭和58年に復元された土橋門

ては、市域東部は海抜15m、最高地点でも33mほどの平坦な地形にあり、北は渡良瀬川、南は利根川の2つの大河に挟まれる地形上、水害への備えは欠かすことのできない重要課題です。

る散策路として、最後の館林藩主である秋元家が使用していた「旧秋元別邸」から館林駅まで続く「歴史の小径」があります。そこには、文豪、田山花袋が少年期を過ごした旧居や、館林城の通用口であった土橋門、芸者の置屋兼料亭として使用されていた「旧二業見番組合事務所」などの歴史的建造物が連なっております。

そうした城下町風情の活用というビジョンの下、現在、「リノベーション」によるまちづくりを進めています。これは、歴史的建造物の活用だけでなく、空き家・空き店舗対策にもつながるものと考えられています。

災害時の危機対応能力の 高いまちづくり

関東平野にある本市の地勢とし

のできない重要課題です。

そうした中、災害に強いまちづくりを推進するため、自治体や多くの事業者などとの防災協定の締結を積極的に進め、平成29年に「大雨・洪水タイムライン（事前防災行動計画）」を策定したほか、現在「洪水ハザードマップ」の改訂も進めています。

また、全国で相次ぐ大規模災害に対する備えとして、民間病院を併設した広域防災拠点の整備にも取り組むなど、近い将来発生が見込まれる首都直下型や南海トラフ地震を想定した対策も進めています。

ともにつくろう、 先端のまち「館林」

今、地方創生、いわゆる「自立したまち」が願われています。私

たちはまず、自分たちの地域の強みと弱みをよく理解する必要があると考えております。そうすることで、地方にある潜在力はより発揮され、弱みにおいてはリスクマネジメントへの取り組みが促進されるからです。

今や国に依存する考え方から、より自立する考え方へとシフトしていく必要があります。「地方が

らイノベーションを」と、国が一億総活躍社会などを推進していますが、まずは地方にソーシャルイノベーションが起きること、つまり意識革命を起こすことが、地方の躍進において最も大切なことだと感じております。

「ともにつくろう先端のまち館林」を合言葉に、これからも全力で取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 60・97km²
- ◆ 人口 7万6621人
- ◆ 世帯数 3万2678世帯

〔将来都市像〕水と緑と人が輝く共創都市たてばやし

〔まちの特徴〕鶴舞う形の群馬県の頭の部分に位置し、利根川・渡良瀬川にはさまれた、歴史あるまち

〔特産品〕キュウリ、ゴーヤ、ナス、米、麦、うどん、そば、麦落雁、醤油、小麦製品、川魚製品、漬物、館林細



館林市長
須藤和臣



〔観光〕館林市つつじが岡公園、館林花菖蒲園、分福茶釜の茂林寺、桜とこのぼり、榎原康政の墓、館林城跡

〔イベント〕さくらまつり、つつじまつり、館林まつり、館林手筒花火大会、夏の城沼花ハスマつり、たてばやし七夕まつり、麵・1グランプリin館林、たてばやし駅伝大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「元気で、あんなきな、誇りの持てる ふるさと飛騨市」の実現に向けて

個性豊かな地域資源の宝庫

飛騨市は、岐阜県の最北端に位置し、周囲は3000mを超える北アルプスの山々に囲まれ、総面積792・53km²の約92%を森林が占める、豊かな自然に恵まれたまちです。

また、豊富な自然資源のほか、ユネスコ無形文化遺産に登録され



飛騨古川祭 屋台行列

た飛騨古川祭、平成14年の小柴昌

俊東京大学特別荣誉教授のノーベル物理学賞受賞に続き、梶田隆章東京大学宇宙線研究所長がノーベル物理学賞を受賞されることにつながったニュートリノ観測施設「スーパーカミオカンデ」をはじめとした宇宙物理学研究施設、大ヒットを記録した映画『君の名は。』でイメージとして用いられている田舎町の風景など、多彩で個性豊かな地域資源が数多く存在します。

人口減少の先進地

本市の人口は、昭和30年の国勢調査時の5万483人をピークに減少を続けて、平成16年の市町村合併時に3万148人、本年1月には2万4702人まで減少しました。約20年後には老年人口が生

産年齢人口を上回る推計が出され

ており、地域の主な消費者である所得の稼ぎ手の減少が、地域経済の衰退に大きな影響を及ぼすことが予想されます。既に、高齢者を支える医療・介護の分野では人材不足が顕著であり、若者の流出により祭りなどの地域の伝統文化の維持が困難になるなど、人口減少はさまざまな分野に影響を与えています。

市民が安心して暮らせる まちづくり

本市では、人口減少問題を正面から受け止めた上で、社会の仕組みや制度、ものの考え方などを変えながら、課題に対して柔軟かつ臨機応変に対応できるまちづくりを進めています。

人口減少による介護人材の不足

が本市の喫緊の課題でありましたが、夜勤手当の増額を公費支援することで夜勤労働者の処遇改善を図るなど、前例にとらわれず全国的にも例のないさまざまな施策を講じ、徐々に効果が現れてきました。また、元気な高齢者にできる限り介護に加わっていただく仕組みづくりや、介護福祉士養成専門学校と連携し、将来の本市の介護を支える人材を育てる取り組みを始めました。

平成29年には、これも自治体では全国初となる児童精神科単科の診療所「飛騨市こどものこころクリニック」を開設し、既に診療を始められています。本年は、障がい児者日中一時支援施設と複合児童福祉施設の建設や、障がい者グループホームの設計に着手するなど、支えを必要とする方が安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

地域資源を生かした まちづくり

本市では、この地域にしかない

豊富な資源を活用したまちづくりに取り組んでおり、近年では大きなチャンスが巡ってきました。

1つ目は、飛騨古川祭のユネスコ無形文化遺産登録です。飛騨古川祭は、毎年4月19日、20日に執り行われ、飛騨の匠の技の結晶である絢爛豪華な9台の「屋台行列」と、数百人の裸男たちが攻防を繰り広げる「起し太鼓」が祭りの見どころです。平成29年には、同じく登録された近隣7都市と連携して山鉦屋台フェスティバルを開催しました。今後は、屋台を展示している「飛騨古川まつり会館」のリニューアルを行い、観光客の皆さまに祭りの魅力を常時体験していただけるよう整備してまいります。

2つ目は、アニメ映画『君の名は。』のワンシーンに使われた飛騨古川駅



映画『君の名は。』のワンシーンに使われた飛騨古川駅

は。』の大ヒットです。これにより本市を認知していただき、公開から1年以上経過した今でも、多くの皆さまに聖地巡礼として訪れていただいております。平成29年に行われた全国55地域のロケ地とグルメで「行きたいまちNo.1」を決める全国ふるさと甲子園では、初出場ながら第6位と大健闘いたしました。このタイミングを十分生かすため、継続的な情報発信やメディアが注目するような新規事業を開し、継続して訪れていただけるようなまちづくりを推進します。

3つ目は、東京大学宇宙線研究所長の梶田隆章先生のノーベル物理学賞受賞です。最近では、研究所施設「スーパーカミオカンデ」の装置内部の絵柄を使ったジグソーパズルが「難しすぎる」としてテレビなどで話題になるなど、さまざまな波及効果が現れてきております。本年は、この地で行われている宇宙物理学研究を知り、体感していただける施設を道の駅に整備します。先般、名称を一般公募し「ひだ宇宙科学館 カミオカラボ」に決定しました。多くの皆さまに親しんでいただける施設となるよう取り組んでまいります。

前向きに動き続ける まちづくり

本市は「人口減少の先進地」ですが、全国や世界に誇れる地域資源の宝庫であることを確信しています。

人口減少下における現実をしっかりと見据え、市民の皆さまと一緒に「元気で、あんな、誇りの持てるふるさと飛騨市」の実現に

プロフィール

- ◆ 面積 792.53 km²
- ◆ 人口 2万4702人
- ◆ 世帯数 8896世帯

〔将来都市像〕元気で、あんな、誇りの持てるふるさと 飛騨市
〔まちの特徴〕全国に誇ることができ自然・観光・文化資源など個性豊かな地域資源が数多く存在するまち

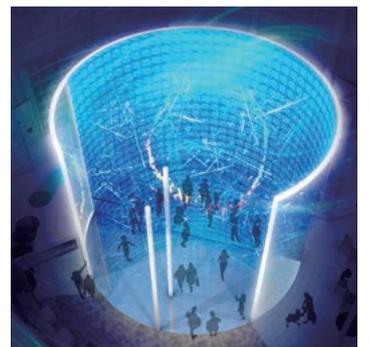
〔市町村合併〕平成16年2月1日、古川町、河合村、宮川村、神岡町が合併



飛騨市長
都竹淳也



〔特産品〕飛騨牛、ホウレンソウ、トマト、寒干し大根、えごま、日本酒、米、和ろうそく
〔観光〕飛騨古川まつり会館、瀬戸川と白壁土蔵街、天生県立自然公園、レールマウンテンバイクガッタングー!!
〔イベント〕飛騨古川祭、三寺まいり、きつね火まつり、飛騨神岡祭、GSA (ジオスペースアドベンチャー)



宇宙物理学研究紹介展示施設のメインシアター (イメージ)

向け、全国の人口減少対策のモデルになるよう取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

住んで良かったと思えるまちづくり、元気な垂水づくり、九つの彩り豊かに健やかな人を育むまち 垂水

市内各地区の特性を生かしたまちづくりを推進

日本の南に位置する「鹿児島県」。そのシンボルは活火山として有名な「桜島」と母なる海「鹿児島湾（錦江湾）」。「垂水市はそんな鹿児島島のシンボルを一望する場所にあります。

錦江湾沿いの美しい海岸線、自然が多く残る高限の山々、神秘的な景観の広がる猿ヶ城溪谷、平成24年に霧島錦江湾国立公園に指定されました高峠つづけ丘公園など豊かな自然が数多くあります。

本市は本年市制施行60周年を迎え、地域住民がまちづくりの主役となり、助け合い・支え合いの心を育みながら、市内9地区それぞれの地域の特性を生かしたまちづ

くりを進めており、市民の幸せと本市の将来像「九つの彩り豊かに健やかな人を育むまち 垂水」の実現を目指しております。

健康長寿・いつまでも地域で幸せに暮らせるまちを目指して

2025年問題が全国的な課題といわれていますが、本市ではその遙か先、2045年状況に達しており、人口減少と年齢構成における少子高齢化は本市にとって深刻なものです。

そのような状況の中、本市ではすべての市民が安心して自立した生活を送れることを目的に、平成29年度から市民を対象に新しい健康チェック事業への取り組みを始めました。

「たるみず元氣プロジェクト」

と名付けて、従来の健診に加え、健康運動・認知機能・食生活習慣・口腔機能などを分野ごとにより専門的に幅広く評価し、今後20年以上継続して行う予定です。

この取り組みは鹿児島大学医学部の教授を中心とする研究チームと民間と協働で行うものです。

高齢化社会が全国平均より早いレベルで進んでいる本市をフィールドに、医療や少子高齢化などの課題について、市民の参加意識やモチベーションを高め、行政と医療が一体となって健康長寿の構築を目指しています。

本市の取り組みは、まだ始まったばかりですが高齢化の進んだ小さな市のチャレンジを、全国に情報発信することにより、来るべき高齢化社会のモデルケースのひとつとなることを願っています。

水産業・農業の6次産業化の推進

本市の基幹産業のひとつであります水産業は、温暖で穏やかな鹿児島湾を利用して、ブリとカンパチの養殖が盛んに行われております。

ブリは、「ぶり大将」のブランド名で関西・関東方面の国内はもとより、北米を中心とした海外にも出荷し、輸出货量では日本一であり、また、カンパチは、国内生産量日本一を誇っており、「海の桜勘」のブランド名で全国に出荷



大漁旗が印象的な「漁船パレード」



霧島錦江湾国立公園に指定された「高峠つつじヶ丘公園」

されています。
現在、ブリとカンパチの加工品の販売も行っているほか、新たな加工品の開発も手掛けており、6次産業化の推進に取り組んでいるところでもあります。

また、農業における産業振興につきましても、6次産業化に取り組む意向のある農業者や組織代表との協議を重ね、魅力ある農林業の振興を図り、市民の皆さまに農林業に対する関心をさらに深めていただけるよう、「第2次垂水市食育・地産地消推進計画」と併せて、地域の特性を生かした特産品

や加工品の開発、地産地消の推進に努めております。

観光振興による 交流人口の増加へ向けて

観光におきましては、平成21年度から教育旅行の受け入れを行っており、本市の自然を生かした農業・水産業の体験メニューにより、受け入れ家庭とともに高い評価を得ているところであります。

観光地では、高峠つつじヶ丘公園をはじめ、猿ヶ城溪谷「森の駅たるみず」には、自然を満喫できる体験メニューや大自然に囲まれたコテージがあり、多くの家族連れにご来場いただいております。

秋には、黄金の絨毯で有名な「千本イチヨウ」を見ようと県内外からも多くの方が来園されており、

わがまち垂水は、大隅半島一の温泉郷としても知られており、飲む温泉水や温泉入浴施設など、さまざまな泉質を楽しんでいただくこともできます。

3つの観光拠点施設による 地域経済の活性化

観光の拠点としては、雄大な桜

島を目の前に望む足湯のある「道の駅たるみず」があります。

本年度には市街地の南に、新たな拠点施設が完成予定であり、北の「道の駅たるみず」、中央の「森の駅たるみず」に加え、この南に位置する拠点施設を結ぶことによ

プロフィール

- ◆ 面積 162.12 km²
- ◆ 人口 1万4649人
- ◆ 世帯数 6751世帯

〔将来都市像〕 住んで良かったと思えるまちづくり、9つの彩り豊かに健やかな人を育むまち垂水

〔まちの特徴〕 大隅半島の北西部、鹿児島湾（錦江湾）に面するほぼ中央に位置し、優雅な桜島を目の前に望む緑豊かなまち。県都鹿児島市をはじめ隣接自治体の移住生活圏としての政策を推進している。

〔特産品〕 海の桜鮎（カンパチ）、鰯大将（ブリ）、桜島美湯豚、つらさげ辛、



垂水市長
尾脇雅弥



り、さらなる観光客の誘客を図り年間200万人の交流人口を目指してまいります。

魅力ある大隅半島の玄関口としての役割を果たすとともに、本市の観光振興並びに地域経済の活性化に向けて取り組んでまいります。

インゲン・キヌサヤ、飲む温泉水、森伊蔵、八千代伝

〔観光〕 霧島錦江湾国立公園「高峠つつじヶ丘公園」、県立自然公園「高隈連山」、透き通った清流が岩間を流れる「猿ヶ城溪谷」、黄金の絨毯「千本イチヨウ」

〔イベント〕 たるみず春フェスタ「高峠祭り」「カンパチ祭」「各種スポーツ大会」（5月連休）、瀬戸口藤吉翁記念行進曲コンクール（6月）、たるみずふれあいフェスタ夏祭り（8月）、たるみずふれあいフェスタ秋の産業祭・千本イチヨウ祭り（11月）

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

ひ た
日田市 (大分県)

これぞ!
食の

イチオシ

梅にこだわりの半世紀



推薦者



日田市役所
地方創生推進課
かわづ
河津みきさん

日田市は、九州でも有数の梅の産地で、「梅栗植えてハワイへ行こう」のキャッチフレーズのもと始まった梅の栽培は半世紀を超えました。この間、生産者や企業は梅干しや梅酒など梅製品の開発に取り組み、全国に向けてアピールしてきました。また毎年2月から3月にかけて、梅の豊作を祈願する「日田おおよま梅まつり」が開催されます。寒中に先駆けて野山一面に咲く梅の花が馥郁とした香りで訪れた人をもてなします。



日田おおよま梅まつり (おおくぼ台梅園)



面積 666.03km²

人口 6万6873人
(平成29年12月31日現在)

梨、ぶどう、すいか、
特産品 白菜、わさび、ゆず、
山椒、梅、エノキ苺

※人口は「住民基本台帳」による。

市政

平成30年3月号

市政

平成30年3月号

特集

都市農業のあり方を 展望する

今年の通常国会において、「都市緑地法等の一部を改正する法律」が成立し、直売所や農家レストランの設置はもとより、これまでなかった用途地域の類型として、田園住居地域が創設されるなど都市農地の保全・活用に向けて大きな動きがありました。

今回の特集では、農地の開発規制の概要と規制緩和の背景などとともに、農地・農業の規制緩和を生かした取り組みを先行的に実施した都市自治体の事例をご紹介します。

寄稿 1

都市農業の現状と 農地保全のための課題

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 安藤光義

寄稿 2

「農ある街づくり」をめざして

柏市長 秋山浩保

寄稿 3

都市農業のあり方を展望する ～「農ある都市」の形成をめざして～

寝屋川市長 北川法夫

寄稿 4

新都市農業の展開状況 ～養父市のチャレンジ～

養父市長 広瀬 栄



都市農業の現状と農地保全のための課題

東京大学大学院農学生命科学研究科教授

安藤光義
あんどうみつよし



都市農業・都市農地の現状

ここでは都市農業とは市街化区域において営まれる農業、都市農地を市街化区域内農地として定義する。全国の農地面積449.6万haに占める割合は2%、7.4万haとわずかだが、農家戸数では9%（22・8万戸）、農産物販売金額では8%（4466億円）を占めており、消費地に近いという利点を活用した集約的な農業が行われている点に特徴がある。また、都市農地は農業生産だけでなく、災害時の防災空間としても重要な役割を果たしており、いわゆる多面的機能を有する貴重な存在である。

だが、都市計画上、市街化区域は原則として10年以内に市街化されるべき地域であり、「農地はあってはならないもの」「宅地化すべきもの」として扱われてきた。特に地価高騰が問題となったバブル経済期の生産緑地法改正（平成3年）により、三大都市圏特定市では生産緑地の指定を受けないと相続税納税猶予

制度が適用されなくなり、同制度の要件も20年間の自作義務から終生営農義務と極めて厳しくなった。生産緑地制度の指定も30年間で長期間であった。そのため市街化区域内農地のうち生産緑地の指定を受けたのはわずかで、多くは宅地並みの固定資産税を支払い続けてきた。図1に見るように宅地化農地の減少が進み、平成5年には約12万8000haであったのが平成27年には約6万1000haと半以下となつてしまった。

都市農地に対する評価の転換と制度改正

現在は人口減少社会に転換し、都市の縮退に伴うコンパクトシティ化をいかに進めるかが課題となるなど状況は一変した。空き家も急増している。宅地への転用は不要であり、それどころか使用しない宅地を農地に転換していくべき時代になっている。

そのため平成27年に都市農業振興基本法が制定されて「農地は都市にあるべきもの」とされ、翌28年には都市農業振興に関する計画策

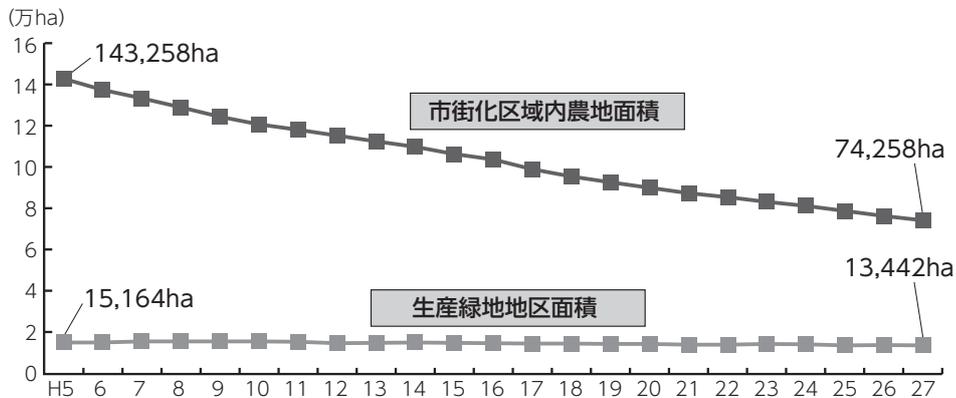
表 都市農地関連の主要な制度の推移

昭和43年	新都市計画法 市街化区域と市街化調整区域の線引き
昭和44年	農業振興地域の整備に関する法律 農業振興地域と農用地区域の設定
昭和49年	生産緑地法 都市環境保全のための農地の位置づけ
昭和50年	相続税納税猶予制度 農業投資価格を超える部分の相続税を猶予し、20年間農業を継続した時は免除
昭和57年	長期営農継続農地制度（地方税法改正） 固定資産税の宅地並み課税の徴収猶予
平成3年	生産緑地法改正 生産緑地の指定期間が30年間に。三大都市圏特定市は生産緑地でないと相続税納税猶予制度が適用されず、また、その場合も終生営農が免除の条件となる。
平成27年	都市農業振興基本法
平成29年	生産緑地法改正

定の努力義務が自治体に課せられることとなった。

平成29年には改正生産緑地法が成立する。改正点は、①生産緑地の面積要件が緩和され、500㎡以下の農地も指定可能となり、「道連れ解除」が防止されるようになったこ

図1 市街化区域内農地面積の推移



資料:総務省「固定資産の価格等の概要調査」、国土交通省「都市計画年報」
出所:農林水産省「都市農業をめぐる情勢について」(平成29年12月)、6頁から引用

と、②生産緑地地区内の行為制限が緩和され、直売所や農家レストラン等の設置が可能になったこと、③指定後30年を経過した生産緑地は引き続き10年更新を可能とする特定生産緑地制度が創設されたことの3点である。生産緑地の面積は平成5年の約1万5000haから平成27年の約1万3000haへと微減

にとどまるが(図1)、指定後30年が経過した途端に解除申請が急増し、都市の貴重な緑が一気に減少してしまうのではないかという危機感が改正の背景にある。

①によって小面積の農地であっても生産緑地に指定して残り、③によってその状態をできるだけ長期間継続を図り、②によって食農ビジネスを展開させて都市農家が都市農地を残せるようにするということである。

さらなる規制緩和措置 — 都市農地の貸借の促進 —

市街化区域内の農地は農業経営基盤強化促進法の対象とはならないため、強い耕作権保護規定が適用され、「農地を貸すと相手が返すというまで返ってこない」状況に置かれていた。これでは農地の貸し借りは進まない。特に市民農園に対するニーズは高いものがあるが、それはできなかったのである。だが、今年(平成30年)の国会で「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」が通過すれば、生産緑地地区の区域内の農地の賃貸借に法定更新と解約制限が適用されなくなり、「農地は貸しても必ず返ってくる」ことになる。これは市民農園としての貸付を促進することにつながる。高齢化や後継者不在で自作できなくなった都市農家には朗報となる。

さらに今年(平成30年)の税制改正により、要件を満たす生産緑地の貸借に対しては相続税納税猶予制度が適用されるようになる予定

である。これまで都市農地を残すのに最も貢献してきた相続税納税猶予制度が、農地を貸し付けた場合でも適用されることの意味は非常に大きい。自作しなければ相続税から農地を守るができなかったが、そうではない道が開けたからである。

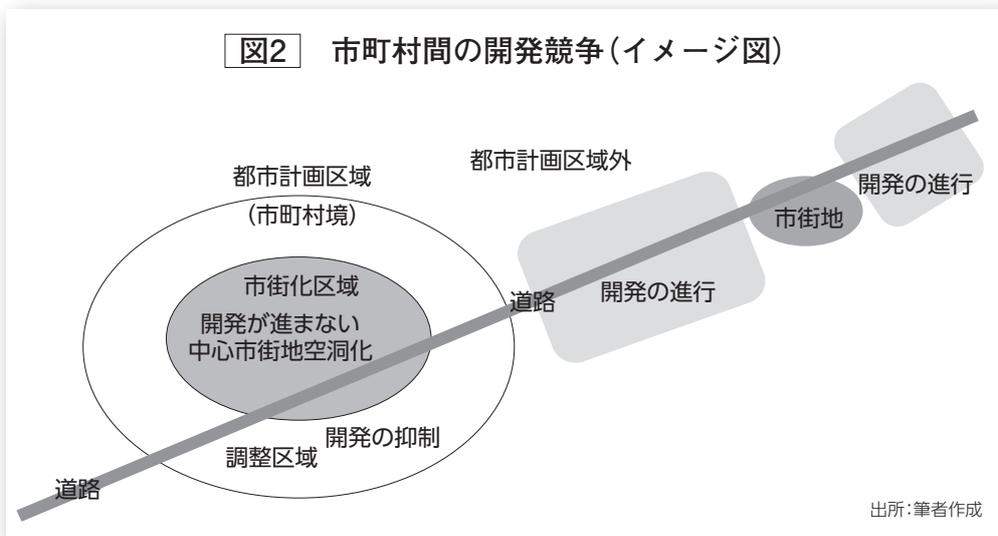
自治体に求められる課題 — これ以上の農地転用はしない覚悟ができるか —

制度改正の結果が生かされるかどうかの鍵は自治体が握っている。農業振興は確かに農業サイドの課題だが、農地を残すことができるかどうかは都市計画サイドの課題である。

例えばJA全中による自治体を対象とした市街化区域内農地に関するアンケート調査によれば(注)、そもそも生産緑地の追加指定を行っていない三大都市圏特定市の自治体は、調査票を回収した184のうち127と実に69・0%にのぼっている。実に7割の自治体が生産緑地の追加指定を受け付けていないのである。差し障りがあるので具体的な市町村名は示さないが、生産緑地の追加指定を行っていない自治体の割合は、首都圏67・3%、中部圏87・5%、近畿圏60・8%となっており、中部圏で特に高い数字となっている。また、首都圏や近畿圏も同じ圏内であっても地域差が大きい。総じて都市化がそれほど進んでいなかったところほど追加指定を行っていないようだ。こうした開発優先のマイナードから都市計画が脱却できるかどうかすべての

出発点となる。

また、地方圏は概して農地転用の進行に対する危機意識が弱く、都市農業振興基本計画策定に向けた足取りは遅れているように見える。これも大きな問題だが、都市環境の維持・



向上のための市街化区域内農地の確保・保全

よりも、地方圏の課題は都市の縁辺部・周辺部の開発を押し止めることにある。人口減少社会が直撃するのがこうした地域だからである。それが分かっているながら人口確保を旗印に農地転用を進めるのは愚の骨頂である。正直者が馬鹿を見ないよう、市町村間のラットレースにどのように歯止めを掛けるかが、国に問われている。図2はそうした市町村間競争のイメージ図である。線引きをしつかり行って市街化調整区域の開発を抑制している自治体と、線引きがされておらず農業振興地域の白地の開発規制も緩い自治体が隣接しているような場合、後者で住宅開発が進む一方、前者の中心市街地は空洞化し、人口が流出してしまう。そうになると前者も開発抑制方針を撤回し、農地転用が進んで、将来的には見るも無惨な光景となりかねない。こうした状況は何としても防がなくてはならず、田園居住地域の運用にも注意が必要である。

農業振興の達成を通じて農地保全へ — 求められる農家の意識転換 —

農地を転用するかどうか最終的な意思決定は農家である。彼らが農地を残さなくてもよいと考えてしまえば、どのような政策を講じたとしても農地を残すのは難しい。農地を引き継いで農業を続けることに経済的メリット

が生じるようにしなければならない。

小規模な都市農業には高い収益が上がるような創意工夫が求められる。生産緑地に直売所や農家レストランの設置が可能になったのは追い風である。取れたての新鮮さを最大限にアピールし、農産物に付加価値をつけていくための事業の組み合わせが有効だろう。その一方、耕せなくなったら市民農園など耕したい人々に農地を提供するという意識に農家は変わる必要がある。体験農園や福祉農園など都市農地に対して高まっている社会的ニーズに応えるのは農地所有者の責務である。

その実現にはJAの協力が不可欠である。離農は組合員の農協からの離脱につながる以上、農業を続けてもらえるよう農家を支援することはJAにとっての課題なのである。「農地のまま残した方が長期的には得」と農家が考えるような相続相談を積極的に進めつつ、都市農家と都市農地を残していくことがJAに求められている。

しかし、それでも私有財産である都市農地を維持するには限界がある。どうしても残す必要がある農地については最終的には公有地としていくしかないだろう。

(注) JA全中「市街化区域内農地等に関する自治体調査」(平成29年3月)。同調査は、三大都市圏特定市223のうち184から調査票を回収し(回収率82・5%)、地方圏401のうち279から調査票を回収している(回収率69・6%)。

「農ある街づくり」をめざして

かしわ
柏市長（千葉県）

あきやまひろやす
秋山浩保



柏の資産

柏市は、東京都心から約30km圏の千葉県北西部に位置し、都心のベッドタウンとして昭和30年代から急激に人口が増加した都市である。「首都圏整備計画」において、首都圏の広域連携拠点となる業務核都市に位置付けられており、商圏人口約230万人の広域商業拠点として発展を続けてきた。人口は約42万人、行政面積は114.74km²で千葉県内では5番目の人口規模を有する中核市である。

また、国道6号、16号、常磐自動車道などの道路網に加え、JR、東武線、つくばエクスプレスなどの鉄道網も充実し、交通の要衝にもなっている。さらに東京大学や千葉大学、国立がんセンター等、北部地域の柏の葉地区を中心に集積する学術研究機関や産業支援機関による新産業の創出も注目されている。一方で市域面積の4分の1

を占める約30km²の農地があり、都市近郊産地を生かした消費者ニーズ重視の少量多品種栽培による営農活動も盛んで、地産地消をはじめ、農商工等連携や産学官連携が可能な都市資産を有していることが、柏の強みとなっている。

柏の農業

本市の農業従事者は、平成27年の農林業センサスでは1683人であり、5年前に比べ約3割の793人が減少している。特に比較的小規模で作業効率の悪い市街化区域内農地では、作業音や臭気等に伴う近隣住民との軋轢や農業従事者の高齢化、後継者不足などから営農が困難になり、畑地を中心とした荒廃農地が拡大するなど、柏市の農業を取り巻く状況は、より一層厳しいものとなっている。

一方で食の安全や安心志向の高まり、6次産業化・地産地消法、経営安定所得対策、

さらには地理的表示法等の法整備により、規模の拡大やブランド化、多角化等で農業経営の拡大にチャレンジしやすい環境も整いつつある。本市では、規模拡大を目指す担い手農家の営農活動も活発化し、耕作面積が100haを超える大規模農家の存在に加え、新規就農や他産業からの参入も急増し、新たな販路開拓や商品開発、都市と農村の交流機会の拡充による地産地消など、さまざまな取り組みが展開されている。

また、市街地の空き地や未耕作農地による雑草の繁茂が、ごみの放棄や病害虫鳥獣の発生、火災の危険を招くなど、衛生面や防犯防災の対策として、町会と農家の連携による体験農園等の「ふれあい活動」により、農地、農業を生かそうとする取り組みも生まれている。

柏市では、この状況をビジネスチャンスとして捉え、平成27年に「柏市都市農業活性化計画」を見直し、新たな経営システムやビ

ジネスマodelの開拓に取り組んでいる。「地域で支える持続可能な魅力ある農業づくり」は、計画のスローガンであり、実現には農地、農業の利点について、市民の正しい理解を深めていく必要がある。そのために、都市住民の身近に点在する180haの市街化区域内農地（176・27haが生産緑地）を活用した食育や即売イベント等により、地産地消をアピールするとともに、都市の生産者と住民が交流する機会の拡充に努めている。主な地産地消の取り組みを紹介する。

地産地消活動

① アグリコミュニケーションかしわ委員会の取り組み

市内の農業団体や商工関係団体の代表30名が一堂に会して平成24年に設立した官民連携組織で、地産地消をテーマに農商工等連携活動を展開している。

市内では、2つの農業協同組合を中心に、農家1410戸の営農活動をはじめ、約3000店舗の商業活動と110社の工業系事業者の活動が展開されている。中でも食の加工販売を手掛ける飲食店や食品加工事業者へのアプローチは欠かせない。

年6回発行の「柏やさい通信」は、農家と飲食店の出会いの場を提供するもので、平成27年5月に創刊し、農産物や生産者、地産地消に取り組む飲食店を紹介している。委員会のメンバーであり、市内在住のフードコミュニケーターが市内の飲食店を訪問取材し編集しているもので、生産者と飲食店のマッチングやオリジナルレシピの開発にも発展している。既に20品以上の新商品も生まれ、協力店のPRとともに地産地消の原動力にもなっている。

その他にも生産者と商工関係者を直接商談につなげる「柏食メッセ」をはじめ、シェフや栄養士のための「農家ツアー」など、柏の農産物や農業の魅力発信に努めている。

② 街なかマルシェ

市内では、おおむね80軒の個人農家による農産物の軒先販売から、「道の駅しようなん農産物直売所」や「今採り農産物直売所かしわで」等の生産者団体が運営する大規模農産物直売所による生鮮野菜や加工品の販売、また、柏駅前マルシェや都市公園の「南部朝市」、寺院の境内を使った「門前市」など、生産者や支援者を中心に市内の10数カ所で随時朝市が開催されている。

特に、市街地の空き地を利用し、農産物の対面販売を行っている野菜市「路地裏マルシェ」は、年々増加する市街地の空き地や未耕作農地を活用するために試験的にスタートした低未利用地活用モデル事業である。

この取り組みは、国土交通省と農林水産省が連携して実施する「都市と緑・農が共生するまちづくりに関する調査モデル事業」の委託調査団体として実施した事業であり、本市では、「市民による低未利用地等の活用における持続的なマネジメントに関する実証調査」の一環として平成28年1月にスタートしている。

また、実施にあたり南部地区の若手農家で構成する「柏農家の野菜市運営委員会」とフードコミュニケーターが参画したことで活動の輪が広がり、同年4月から生産者・消費者・飲食店・販売店などの共同運営が実現している。

路地裏マルシェは、平成28年に7回開催し、毎回5〜6軒の農家が出店し、直接消費者に販売を行った。また、近所のパン屋や珈琲屋にも参加を促し、より多くの住民が気軽に足を運べるような空間を目指した。当初は1カ所だった会場も2カ所に、初

回70名ほどだった来場者も徐々に増加し、現在200名を超える盛況で地域にも浸透していった。また、野菜市を利用する飲食店もオープン当初の15軒から70軒程に広がっている。

平成29年6月には、柏駅の隣接地で常設の農産物直売所もオープンさせ、都市住民に向けた食育や柏産農産物の情報発信にも努めている。

③食育親子農園

市街化区域の大津ヶ丘、酒井根地区の2カ所、計3500㎡の農地を活用し、平成29年7月から開園している「食育親子農園」は、市と市民団体の「柏市コミュニティ植物医師の会」やNPO法人等で構成する「柏市農とのふれあい推進協議会」が、国の「都市と緑・農が共生するまちづくりに関する調査モデル事業」を活用したものである。

事業の目的は、都市部と農地が隣接・混在する郊外都市の特性を生かして、「農とのふれあいの場」の一つである体験農園の新たなモデル化に取り組むもので、食育をテーマとした小学生の親子向けの体験農園を地域住民が有償ボランティアとしてサポート役を担い、運営モデルの構築を試みるもの。

生産性よりも農作業経験に大きな価値をおき、地域貢献性を共有し、親子間並びに地域間コミュニケーションの促進とともに、農業を支える消費者の育成や市街化区域内農地の新たな活用手法の確立を目指すものである。

事業は、毎週土曜日の午前9時から正午まで、参加者がスタッフの指導のもとで農作業に取り組めるスタイルとなっている他、月1回の農家による園芸講座や料理ワークショップ、専門家による学習プログラム等を開催し、農・食に関する知識や理解を深めている。

今後は、調査結果を踏まえ、学校教育との連携による食育、教育的な農地活用に向けて、発展的な取り組みにつなげたいと考えている。

持続化に向けて

市街化区域内農地については、今まで本市では防災協力農地の登録推進に努めてきたものの、農業政策上の生産圃場としての位置付けが薄く、農業・農村の多面的機能の普及にも消極的だったことは歪めない。

しかし、平成28年度の都市農業振興基本

法の制定や昨年の都市緑地法等の一部を改正する法律の成立、また農地法の政令改正などにより、市街化区域内農地の活用や営農活動にも光が見えてきた。

柏市では、農業の重点課題を5つにまとめている。①農地の有効利用対策②新規就農者の確保、定着対策③専業農家の経営拡大支援④市民・消費者の農業理解の推進⑤農業振興に向けた連携の強化であるが、特に市街化区域内農地の営農環境の改善には、市民・消費者の農業理解の推進は欠かせない。

現在本市が行う都市部における地産地消の取り組みは、市民の農地・農業の理解を深め、就農や就労、ボランティアや体験農園への参加、CSAによる農業サポーターの発掘、育成により営農環境の改善を行い、地域で支える持続可能な魅力ある農業づくりを進めるための布石である。

市では、引き続き地産地消や農工商等連携の取り組みを粘り強く支援し、農地、農業の市民理解のための新たな交流機会の提供に向けて、今後も市民や関係者の皆さんと連携協働し、柏市における農ある街づくりの実現に力を注ぎたい。

都市農業のあり方を展望する 「農ある都市」の形成をめざして

寝屋川市長（大阪府）
ねやがわ

北川法夫
きたかわのりお



はじめに 寝屋川市の概要

寝屋川市は、大阪府の北東部、淀川左岸（上流から下流を見て左側）に位置し、大阪市中心から15km、京都市域の中心から35kmの距離にあり、面積は24・73km²の人口約23万6000人の都市である。

地勢は、大きく東部丘陵地帯と西部平坦地帯の2つに分けることができる。東部丘陵地帯は生駒山系の一部で、海拔は約50m、西部平坦部はおもに沖積層からなる海拔2〜3mの平地で北河内の低湿地帯と呼ばれている。本市には、市域の中心部を流れる寝屋川を市の名称にしているように、この土地に住む人々と「水」がいかにして調和のある共生を実現するのか、という課題に取り組んできたという生立ちがある。

本市の北西を流れる淀川は、古くから人や物の移動の大動脈として重要な役割を果たし

てきた。しかし、たびたび洪水も起こり、古代から明治に至るまで沿川の人々を苦しめた。また、逆に丘陵部に住む人々は、用水の確保に苦勞してきた歴史がある。

寝屋川市の農業と農業施策

本市の農業は、東部丘陵地帯での甘藷かんじゆの栽培が行われているものの、水田の稲作が中心の西部平坦地帯では、人口増加とそれに伴う宅地開発の大きな影響を受けながら農業が営まれてきた。

農地の状況としては、平成29年1月1日現在、市域面積の約6・4%にあたる156・9haが農地で、そのうち市街化区域内農地が86・6ha、市街化調整区域内農地が70・3haである。

本市の農業施策としては、平成13年度に「寝屋川市農業振興ビジョン」を策定した。

農業振興ビジョンの中で、本市のように都市化の進んだ地域では、農業・農地の役割が

単に食料生産・供給だけに限らず、農業の有するさまざまな資源を積極的に、保全・活用していくことが重要であると位置付け、市民、農業者双方にとって魅力ある農業を育て、農地の多面的機能を発揮し、市民、農業者、農業団体、行政の間に「農ある都市」こそ、「豊かな住みよい都市」という共通意識を幅広く、協働して農業振興に取り組むことを基本理念とし、「農ある都市の形成」を基本テーマとして取り組んできた。

「農業振興ビジョン」は①②③の3つの柱で構成されている。

- ① 新鮮で安全・安心な農産物の供給
- ② 市民と農の交流
- ③ 農地の保全・活用

「防災協力農地登録制度」 農地の多面的機能を生かして

「防災協力農地登録制度」は、農地の保全・活用の分野で取り組んでいる事業であり、平

成15年4月に「寝屋川市防災協力農地登録制度」を創設し、現在、農地の登録推進に努めている。

この制度は、農地のもつ農作物の生産の場という基本的な機能に加え、防災機能など「農地の多面的機能」を生かし、特に、生産緑

地地区をはじめとする市街地の農地が、都市の貴重なオープンスペースであり、防災の観点からも地域住民へ果たす役割が大きく、その保全が必要である。そのことから、災害時に避難空間、復旧用資材置場として活用できる農地を農業者の協力により、あらかじめ「防災農地」として登録していただいている。災害時の市民の安全確保と円滑な復旧活動に



防災協力農地の看板



防災協力農地指定農地の全景

役立てる用地を確保するとともに、農地が農作物の生産の場だけでなく、防災面、環境面からも重要なオープンスペースであることを市民に理解してもらうことにより、農地の保全と都市農業の振興に寄与することを目的としている。

平成29年4月現在の登録状況は、110農家で、219筆、18万6331㎡となつています。農地区分での割合では、生産緑地は、登録面積の約59%、宅地化農地は、10%、市街化調整区域内農地は、31%である。

防災協力農地の使用用途は避難空間、復旧用資材置場、仮設住宅などになる。登録期間は3

年で、期間満了毎に3年間の登録を更新する。防災協力農地として使用する場合は、登録者に市長から使用要請を行い、使用期間は原則2年以内である。

使用した場合は、土地使用料および農業補償を行うこととして、実際に事態が発生したときには、農業関係団体等で構成している「農政推進協議会」で補償内容について検討することとなっている。

防災協力農地登録制度創設後は、市民に対し市広報への掲載や、一般紙などに取り上げてもらうなど周知・啓発を行い、農業者に対

しては、農協の支部長会での説明および依頼を行った。また、それと並行して農業委員会をはじめ、農業関係団体への説明等を進めてきた。

平成17年には、市民により理解を深めてもらうため、神田地区において防災イベントを開催し、実際にビニールハウスへ



レンゲ開放および防災協力農地の看板とその全景



レンゲ開放時の農地の状況

都市化が進む中で、今後も農業生産活動を展開するためには、農業の中心的生産基盤である優良な農地を確保していくとともに、市内農地の多面的機能を発揮させ、都市環境と市民生活の質の向上に資するものとしていくことが重要である。そのためにも、農地をまちづくりの中の大切な要素として位置付け、農地の確保・保全を進めるとともに、農地の多面的機能である災害時のオープン・スペース、農地を都市の貴重な緑として保全していく。さらに、市民の良好な生活環境を維持するとともに、都市環境整備へ一定の役割を果たすことを目標として景觀に配慮した農地やその周辺の環境づくりを進めることで、都市公園とともに市民生活にうるおいと安らぎを与える空間作りをめざしていく。

の避難体験を行った。
農地登録の推進では、平成17年度より、防災協力農地登録制度と同時期にスタートさせた「農地景観形成推進事業」と連動して農地登録の推進を図っている。
この「農地景観形成推進事業」は、市内農地にレンゲ、コスモスを植栽してもらい、開花

時期にあわせて広く市民に開放してもらおう事業である。普段は立ち入る事が出来ない農地にレンゲ畑等で自由に楽しんでもらうことにより、都市にある農地の理解を深め、親しんでもらうものである。また、開放していただいた農業者に対しては補助金を交付するとともに、併せて防災協力農地に登録してもら

うようお願いしている。
農地が防災協力農地であり、また開放農地であることにより、都市における農の空間としてより一層、地域住民の農業・農地に対する理解と協力が得られるものと考え、「農ある都市」の形成をめざしている。

おわりに

新都市農業の展開状況 〜養父市のチャレンジ〜

養父市と新都市農業

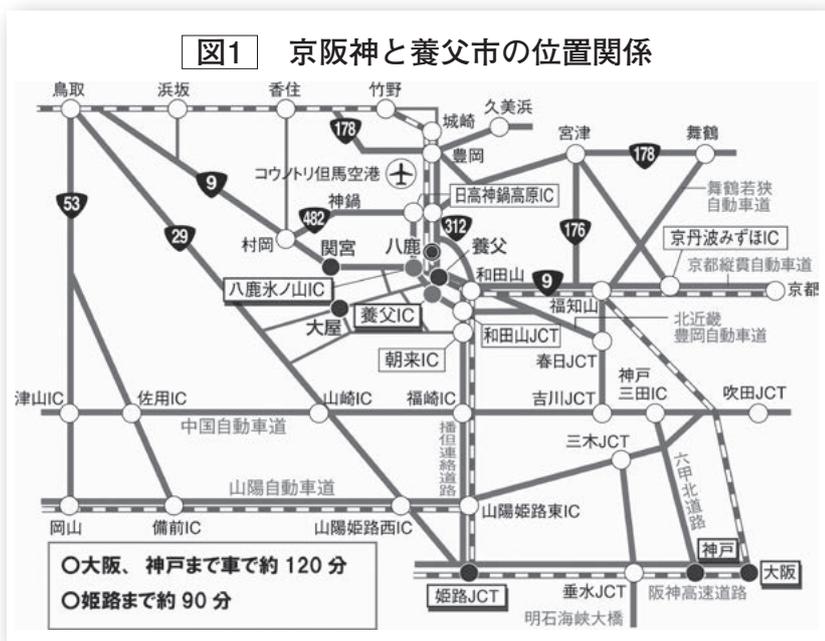
養父市は、平成16年4月に兵庫県養父郡の八鹿町・養父町・大屋町および関宮町が合併して誕生し、人口約2・4万人、世帯数約8700世帯(平成27年国勢調査)の中山間地域のまちである。

地理的には、兵庫県北部の但馬地域の中央に位置し、面積は約423km²と兵庫県の5%、但馬地方の5分の1を占めている。気候は日本海内陸型であり、一般的に多雨多湿、冬季は大陸から季節風が吹くことで積雪も多くなり、山間部にはスキー場も複数存在している。

このような本市の概要をご紹介すると、今回の特集テーマである「都市農業のあり方を展望する」とは縁がないと読者は感じられるかもしれない。

しかし、本市は京阪神地域と山陰地方を結ぶ国道9号が東西に、姫路と山陰地方を結ぶ国道312号が南北に通うなど交通の要衝で

ある他、平成24年11月には北近畿豊岡自動車道「八鹿氷ノ山IC」および「養父IC」が供用



養父市長(兵庫県)

広瀬 栄



開始となり、京阪神地域から約120分で到着することができるようになるなど、京阪神地域という大消費地をターゲットとした農業が可能な条件が揃っている。

近年、本市において、この立地条件に着眼し、都市部の消費地をターゲットに中山間地域で農作物の生産を行う「新都市農業」ともいべき取り組みが広がってきており、これらのいくつかを紹介したい。

中山間地域・養父市の農業が抱えてきた課題

ここで、中山間地域である本市の農業が抱えてきた課題を整理したい。

まず、全国的な視点でいえば、中山間地域は全国の農地面積の約4割、総農家数の約4割を占め、日本の農業の中で重要な位置を占めている。しかし残念ながら、中山間地域の農地の荒廃は近年日本中で加速度的に

進んでおり、地域の農家が協力して農地を守り、新規就農者を受け入れても、耕作放棄地の増加するスピードに追い付かないのが実情である。

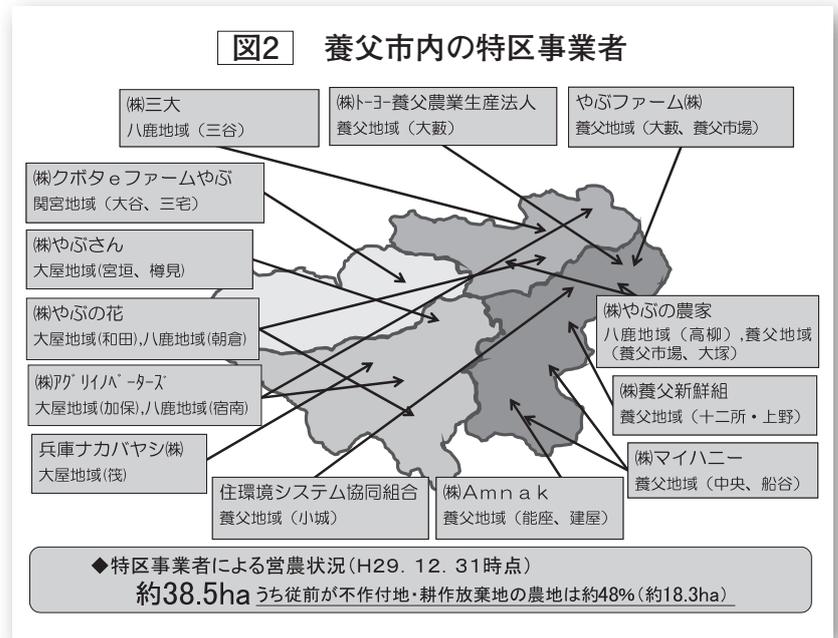
先人たちが苦勞して切り開き、日本人の心のふるさとにもなっている農地や農村環境を守るためには、その地域に合った農業で持続可能な農業経営体を増やすことが喫緊の課題である。本市は、地形が急峻で農地が狭いため農業効率が悪く生産コストが総じて高い。この結果、経営耕地面積が0.3〜0.5haの

し、6次産業化による持続的な農業を可能にすることが必要と考え、国家戦略特区の規制改革を活用して大規模生産地と棲み分けが可能な仕組みを作った。

具体的には、農地の流動化を促進し、かつ迅速に処理するため農地の権利移動に係る許可権限を農業委員会から市長に移管した。次に、農業生産法人(当時)の役員要件を緩和し、企業の農業参入のハードルを下げ、事業者を確保した。役員要件の緩和はその効果が認められ、平成28年4月の改正農地法の施

行により全国に展開された。さらに企業と地域住民が一体となり農業に取り組める環境づくりとして、これまで認められなかった農地所有適格化法人以外の法人による農地取得を可能にした。これは戦後、日本を支えてきた農業システムの大革命であり、現時点では本市のみの特例であるが速やかな全国展開が望まれる。

これら仕組みを活用し、現在13の特区事業者が本市で農業参入しており、40名以上の新たな雇用を創出しながら約38・5haの農地で営農している。この営農面積のうち約半数は従前、不作付地や耕作放棄地であった農地である。また、農地所有適格化法人以外の法人による農地取得は4つの事業者が活用しており、このことにより、地域の信頼を得ながら、長期的・安定的な事業展開が可能となった。



養父市のチャレンジ 国家戦略特区認定の活用

このような状況を打破するために、企業が持つ経営ノウハウを活用し、6次産業化による持続的な農業を可能にすることが必要と考え、国家戦略特区の規制改革を活用して大規模生産地と棲み分けが可能な仕組みを作った。

具体的には、農地の流動化を促進し、かつ迅速に処理するため農地の権利移動に係る許可権限を農業委員会から市長に移管した。次に、農業生産法人(当時)の役員要件を緩和し、企業の農業参入のハードルを下げ、事業者を確保した。役員要件の緩和はその効果が認められ、平成28年4月の改正農地法の施

行により全国に展開された。さらに企業と地域住民が一体となり農業に取り組める環境づくりとして、これまで認められなかった農地所有適格化法人以外の法人による農地取得を可能にした。これは戦後、日本を支えてきた農業システムの大革命であり、現時点では本市のみの特例であるが速やかな全国展開が望まれる。

これら仕組みを活用し、現在13の特区事業者が本市で農業参入しており、40名以上の新たな雇用を創出しながら約38・5haの農地で営農している。この営農面積のうち約半数は従前、不作付地や耕作放棄地であった農地である。また、農地所有適格化法人以外の法人による農地取得は4つの事業者が活用しており、このことにより、地域の信頼を得ながら、長期的・安定的な事業展開が可能となった。

参入事業者の新たな取り組み

国家戦略特区などを活用した事業者の参入により、農地の再生のみならず、本市の農業に変化が現れている。

既述のとおり、本市は日本海内陸型の気候で冬場の露地栽培はできず、その地形条件から大規模な営農も困難であり、このことが専業として農業を生業とすることを困難としていた。そのことが農家の第2種兼業化を進め、その結果、農家が最も作りやすい稲作を中心とした営農体系となっていた。

しかし、京阪神という大消費地を商圏内に

図3 養父市におけるスマートアグリの実施と女性の活躍

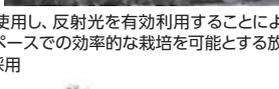
廃校を利用したレタス工場



- ◆天候に左右されず大量の野菜を生産
- ◆農業を使わず安心・安全な農業



◎体育館の広さ・高さを有効活用し多段栽培で高収穫を実現



◎光源に蛍光灯を使用し、反射光を有効利用することにより、省エネ・省スペースでの効率的な栽培を可能とする放物線型反射板を採用



○廃校の体育館を活用

女性の活躍

- ◆トマト生産企業
 

埼玉、宮崎などで研修を受け、養父市で農業を実践
- ◆ニンニク生産企業
 

農業高校を卒業し、就農を希望した高校生が即戦力で活躍
- ◆酒米生産企業
 

美しい田園風景に魅かれて移住地域住民と協力しながら仕事と子育てに奮闘

持つ本市としては、稲作のみに留まらず、野菜などの大都会の消費者のニーズが大きい作物に本市の農業をシフトする必要があると考えていたところ、このような視点での取り組みが市内で展開され始めている。

例として、特区を活用して参入した複数の

事業者が、天候に左右されない安定した野菜生産を行うため、ハウス等を設置して糖度の高いトマトやレタス等の葉物野菜の生産をしている。生産された作物は参入企業のネットワーク等を活用し、大阪市場等の大消費地へ出荷されている。

また、本市は国家戦略特区の取り組み以前から、市内の廃校を活用した企業誘致を進めてきたが、廃校を植物工場として活用している参入事業者は、一日数千株のレタスを安定的に生産し、近畿圏を含めた全国各地に出荷を行っている。

これら植物工場による次世代農業（スマートアグリ）の取り組みにより生産された野菜は、農業が使われていないことから安心・安全で、露地ものと比較して日持ちがするなど、高い評価を得ている。さらには、本市の地形条件や気象の多様性を活用した取り組みも行われている。

ある特区事業者は、標高30m程度から兵庫県最高峰の水ノ山（1510m）を有するという本市の地形的優位性を活用し、暖地系と寒地系のニンニクを標高に合わせて栽培した上で、京阪神の市場への他産地からの供給量を睨みながら、安定的に出荷を行う取り組みが行われている。

また、県南部で酒米を生産していた事業者が、温暖化が原因と考えられる障害が見られ始めたことから、新たに県北の本市に進出し、寒暖差の大きい棚田の気象条件を活用しながら良質な酒米を生産している。この酒米を利用しうまい地酒が作られており、兵庫県下での販売はもとより、海外への輸出に着手した事例も生まれている。

これらの取り組みでは、女性の活躍が重要な位置を占めており、この点も特筆すべき事項であると考えている。

終わりに

これまで本市の農業が抱える課題や、その課題を解消するための国家戦略特区を中心とした取り組み、それらの取り組みが生み出した成果を紹介してきた。それに関連して、道路インフラが整備され、本市が京阪神地域という大消費地を商圏とすることが可能となったことによる近年の成果も紹介した。

本市は、中山間地域の小さなまちであり、従来の施策のみでは生き残ることは不可能であると考え、特区を中心としたさまざまな取り組みを行ってきた。今後とも関係者の協力をいただきながら、大消費地でもある都市のニーズに応え本市の農地に新たな価値を生み出す機能を創出しながら、強い意志を持って地方創生の実現に向けて挑戦し続けていきたい。

都市の リスクマネジメント

第95回

災害時の議会・議員の役割

跡見学園女子大学教授

鍵屋 一



7回目の3月11日が巡ってきた。今もお、2500名を超える行方不明者がいらっしやる。ご家族、ご友人のお気持ちはいかにかりであろうか。命を落とされた方々のご冥福と、被災者の心と生活の復興を心からお祈り申し上げたい。

災害時の議会・議員

災害時の地方議会・議員のあり方については、災害対策基本法に議会、議員に触れる条文が全くないなど法制度上も実態的にも明確ではない。

唯一、地方自治法において「非常の災害による応急若しくは復旧の施設のために必要な経費又は感染症予防のために必要な経費」を、長が再議に付しても「議会の議決がな同号に掲げる経費を削除し又は減額したとき」は、長はその議決を不信任の議決とみなすことができる旨の規定がある。これは、災害対策における長の優越を認めた規定とみなせる。

災害時には議員は「行政の邪魔をしない」とが重要だといわれるが、それだけで良いの

だろうか。災害時の議会・議員の取り組みについて、多くの現職議員と研修をして考察したので報告する。

地方議員のアンケート結果

全国市町村国際文化研修所は、「防災と議員の役割」研修を実施していて、平成27年度からは、私も講師として携わっている。ここでは講義とともに、グループワークを通じて災害時における地方議会・議員活動の「集合知」の形成を目指している。集合知とは、専門家による知よりも、むしろ一定の条件が整った場合には素人の「衆知」が正解に近いことをいう。

これまでの集合知の成果を生かし、今年度は議員研修アンケート（全数70）を行ったので、その結果から見える議会・議員がなすべきこと、してはならないことを端的に紹介したい。

【議会がするべきこと】

- 1位 災害時の議会・議員活動方針策定(66)
- 2位 情報の一元化(64)

- 3位 行政に負担をかけない議会運営(57)
- 4位 平時の防災特別委員会(56)

【議会がしてはならないこと】

- 1位 行政に負担をかける議会運営(長時間、出席者多数、多くの資料請求)(62)
- 2位 応急対策への批判的質疑(53)
- 3位 災害直後の議会開催(48)

【議員がするべきこと】

- 1位 情報収集・提供(68)
- 1位 地域支援活動(68)
- 3位 国等関係機関への要望(50)
- 4位 視察の受入(35)

【議員がしてはならないこと】

- 1位 行政職員を威嚇(68)
- 2位 支援者への利益誘導(63)
- 3位 行政批判(62)
- 4位 他議員の活動批判(55)

※()内は票数、複数回答可

災害時の議会・議員の活動方針の考察

例えば、4分の3以上の特別多数(上記の

Risk Management

場合は53以上)の賛成があるものを、直ちに活動方針にするならば、次の試案が成立する。

(1) 災害時の議会・議員活動方針策定

ほとんどの議員は、災害時の議会・議員の活動について方針・ルールのない状態そのものが大きな課題だと認識している。

しかし、全国市議会議長会の協議会である都市行政問題研究会が作成した「都市における災害対策と議会の役割」に関する報告書(2014年2月)では、研究会加盟86市および大規模災害被災自治体33市に実施したアンケート調査によると、災害が発生した場合に、議会・議員の取るべき行動等を定めたマニュアルを策定している市議会は11市議会(9.2%)である、と書かれている。その後、いくつか増えているとしても、多くの議会では未作成のままだと思われる。

問題は、多くの議員が重要課題として認識し、解決の方向性や具体案もあるのに、なぜマニュアルさえ作成されないかということである。

議会・議員は、執行機関に対して監視・政策提案をすることが中心であり、議会関連の課題に関して新たに合意形成することそのものが困難である。このため、何らかの大きなきっかけがなければ、緊急性に乏しい災害時のマニュアル等整備のために時間を取ること自体が、合意を形成しにくいと考えられる。

しかし、災害は予防こそが要である。自然災害が多発する日本において、自治体議会が

自らの活動方針さえ定めない現状を憂えざるを得ない。

(2) 活動方針の概要

【議会】

・情報の一元化

災害時に議員が個別に長はじめ幹部職員に情報提供や要望をすると、行政の負担が増えるだけでなく、不公平感が生じる可能性が高い。そこで、情報や要望を個別に行うことを禁止し、議長等に一元化してまとめ、文書にして届けるのが望ましい。なお、2次災害の危険性があつたり、被災者の生死にかかわる緊急事態が生じたりした場合は、この限りではない。

・行政に負担をかけない議会運営

災害時には、行政が多忙を極めることが想定される。どうしても緊急に議会を開会する必要があるならば、平時のルールではなく、「短時間」「出席者絞り込み」「最小限の資料請求」などを例示した災害仕様のルールとするべきである。

・平時に防災特別委員会

自治体の防災対策の質を上げるために、平時に特別委員会を設置して議論することが有効である。例えば大規模災害時に、学校の校庭に仮設住宅を設置するかどうかは、必ず大きな課題になる。このような問題について議会審議を通じて平時にルール化することで、災害時の混乱を最小限に抑え、迅速な復興につながっていく。

【議員】

・情報収集・提供

地域では、行政職員よりも議員の方が日常生活を通じて住民との情報収集・提供ルートを持っていることが多い。そこで、市区町村が機能縮小/停止しているときに、議員が情報面から支援しようとする積極的な姿勢が望ましい。

・地域支援活動

災害直後には、その立場を生かして避難所や在宅家庭への支援活動を行うことが望まれる。

・批判や利益誘導の禁止

議員は住民代表であることから、影響力が大きい。その地位を利用して、行政職員を威嚇して支援者への利益誘導をしたり、行政や他議員の活動批判を行ったりすることは差し控えなければならぬ。災害時の批判活動は、行政と住民を分断し、行政への不信感を高める。それは、住民の心と生活復興の遅れに直結する。

筆者プロフィール

鍵屋 一 (かぎやはじめ)

1956年秋田県男鹿市生れ。早稲田大学法学部卒業。板橋区防災課長、板橋福祉事務所長、福祉部長、危機管理担当部長(兼務)、議会事務局長等を経て2015年3月退職。京都大学博士(情報学)。2015年4月跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授。法政大学大学院・名古屋大学大学院兼任講師。内閣府「災害時要援護者の避難支援に関する検討会委員」など政府委員。内閣官房地域活性化伝道師、(一社)福祉防災コミュニティ協会代表理事など。著書に『図解よくわかる自治体の防災・危機管理のしくみ』『福祉施設の事業継続計画(BCP)作成ガイド』など

全国市長会の

動き

1月15日～2月12日

詳細につきましては、全国市長会ホームページ
 (<http://www.mayors.or.jp/>)
 をご参照ください。

#1 理事・評議員合同会議を開催

1月24日、理事・評議員合同会議を開催。松浦会長から開会あいさつした後、安田・総務事務次官から「平成30年度の地方税財政について」、多田・内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局企画・推進統括官から「ホストタウンの推進等について」、青木・全国郵便局長会会長から「全国郵便局長会の地方創生の取組」と題した講演がそれぞれ行われた。

次いで、諸会議の開催状況等について報告を行った後、平成30年度全国市長会収支予算(案)等、全国市長会創立120周年記念・第88回全国市長会議開催要領(案)について協議を行い、これらを原案のとおり決定した。

〔企画調整室〕



開会のあいさつを行う松浦会長

#2 政策推進委員会を開催

1月24日、政策推進委員会を開催。松浦会長から挨拶の後、当面する主要課題への対応について意見交換を行った。

〔企画調整室〕



会議の様子

桜奉行

幕末奈良を再生した男・川路聖謨

直木賞作家 出久根達郎 著 (本誌「時代を駆け抜けた偉人たち」著者)

養徳社 定価1,800円(本体)

幕末期の日露和親条約締結時、北方領土の国境策定に活躍した川路聖謨としあきらは、ロシア側使節から「ヨーロッパでも珍しいほどのウィットと知性を備えた人物」と評価された。その彼の人となりを知ることができる小説である。

5年半の奈良奉行時代を、彼の日記を底流に描き出す。桜は枯れ寺社は荒れ、人心も荒む奈良を、どのように再建したか。人材起用、産業振興、桜楓の大植樹運動など、いまの奈良の礎を作ったと言える施策の進め方にも注目したい。連載小説の単行本化の第一弾。

